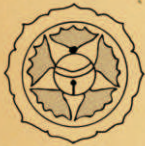


第38回企画展

亀山高校とその歴史

～創立100周年を記念して～



ごあいさつ

三重県立亀山高等学校は、戦後の学制改革により、昭和23年（1948）、三重県立鈴鹿高等女学校と三重県立亀山実業学校を母体とし、新制高校として誕生しました。鈴鹿高等女学校は、大正10年（1921）に創立した鈴鹿郡唯一の高等女学校です。亀山実業学校は、亀山公民学校につづいた学校です。昭和10年（1935）に亀山町に男子の中等教育機関設置の願望により設立されました。亀山高等学校は、これらの学校の歴史を引き継いで誕生し、現在にいたるまで地域に根ざし、また地域から大切にされる学校であり続けています。

1世紀を超えて地域の中等教育機関としてあり続けている学校。その系譜は、今も亀山高等学校で引き継がれています。その背景には、新制高校の発足にあたり、通学地域を限定する学区制の導入があると考えられます。学区制により、鈴鹿郡に住む生徒は、亀山高等学校に通うことになりました。そのため、地域に多くの卒業生を輩出しました。現在も、亀山市や隣接市には多くの卒業生が暮らし、また在校生も同じ地域から通っています。その要因のひとつは、学区制という戦後の教育制度の初期の歴史があるのではないかと考えています。

本企画展では、学校の沿革をはじめとして、日々の授業やクラブ、学校行事などの学校生活の歴史をご紹介します。展示を通じ、戦争や学制改革、学区制など時代の波を乗り越え、地域の教育機関として続いてきた姿に迫れればと思います。

また、卒業生、在校生は、青春時代を過ごした学び舎でのさまざまな思い出を、学校を支えてきた地域の人々にとっても、学校や生徒との思い出を抱かれていますのではないのでしょうか。皆さまと学校の思い出をつなげる場になれば幸いです。

最後になりましたが、本企画展の開催にあたり、多大なるご協力をいただきました三重県立亀山高等学校、また、各時代の学校の卒業生の方々をはじめ、ご教示、ご協力をいただきました皆様に厚くお礼申し上げます。なお、本企画展は、公益財団法人岡田文化財団の助成を得ています。

令和4年4月

亀山市歴史博物館

目次	
ごあいさつ	1
目次・凡例	2
1. 亀山高校の系譜	3
(1) 鐸鳴女学校	4
(2) 鈴鹿高等女学校	7
(3) 亀山公民学校	17
(4) 亀山実業学校	19
2. 亀山高校の昭和時代 ～芽吹きから確立～	23
(1) 制度整備	24
(2) 校舎整備	26
(3) 学科編成	31
3. クラブ活動と栄光の日々	37
運動部	38
文化部	44
4. 亀山高校新聞から見た亀高生	51
5. 写真でふりかえる学校生活	59
(1) 授業風景	60
(2) 戦中の高女生・実業生	63
(3) 文化祭・学園祭・音楽会	66
(4) 運動会・体育祭・マラソン大会	68
(5) 修学旅行	70
付録 三重県立亀山高等学校の系譜	74
掲載資料一覧	78
主な参考文献	81
謝辞	82

凡例

- ・本図録は、第38回企画展「亀山高校とその歴史～創立100周年を記念して～」(令和4年4月23日から6月12日まで開催)における展示図録として作成したものです。
- ・本図録は、展示資料の一部を掲載したものです。したがって、図録に付す資料番号は展示会場の資料番号とは異なっています。
- ・本企画展は6コーナー「私たちと亀山高校」では、亀山高校の思い出をカードに記入いただき掲示しましたが、本図録では掲載を省略しました。
- ・本図録に掲載した写真は、中川由莉(当館学芸員)、小林秀樹(当館館長)が撮影しました。
- ・本図録の執筆は中川由莉(当館学芸員)、表紙レイアウトは大澤亮二(当館職員)が担当しました。
- ・解説文では、学校名を以下のとおり略記している場合もあります。

鐸鳴女学校	鐸鳴
鈴鹿高等女学校	鈴鹿高女
三重県女子師範学校	女子師範
亀山実業学校	亀山実業
亀山高等学校	亀山高校

Ⅰ 亀山高校の系譜

三重県立亀山高等学校は、昭和23年（1948）、学制改革による新制高校として誕生しました。直接の母体は、三重県立鈴鹿高等女学校と三重県立亀山実業学校です。それぞれ、鈴鹿高等女学校は私立鐸鳴女学校、亀山実業学校は県立亀山公民学校を引き継いで創設されました。そのほかにも、私立三重文化裁縫女学校を引き継いだ三重県鈴鹿郡亀山町立文化女学校、それを引き継いだ三重県立亀山実業学校女子部も、最終的に亀山高等学校へつながります。

亀山高等学校の前身となった学校は、地域からの中等教育機関設置の要望により設立されました。地域の人々が、義務教育である初等教育後の教育に非常に関心を持ち、また、地域の有力者たちもそれに呼応する形で学校設立を実現していきました。亀山高等学校の系譜をたどると、地域の人々の教育に対する熱い想いをうかがい知ることができます。

(1) 鐸鳴女学校

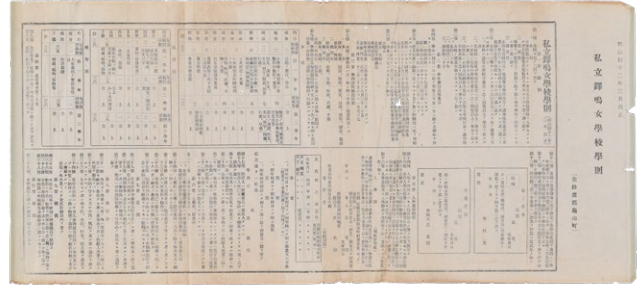
私立鐸鳴女学校は、明治38年(1905)に開校し、大正10年(1921)まで存続しました。開校の契機は、明治37年の三重県女子師範学校の開校でした。女子師範学校入学希望者のための予備校のような学校が必要とされ、翌年開校しました。学科や修業年限、校舎等は、開校当初より変遷がありますが、明治42年(1909)に本科・裁縫科・補習科の3科とすること、東丸の二階建て校舎を利用することとして、学校の形が定まりました。



1-1 私立鐸鳴女学校正門

明治38年(1905)～42年(1909) 加藤尚大家

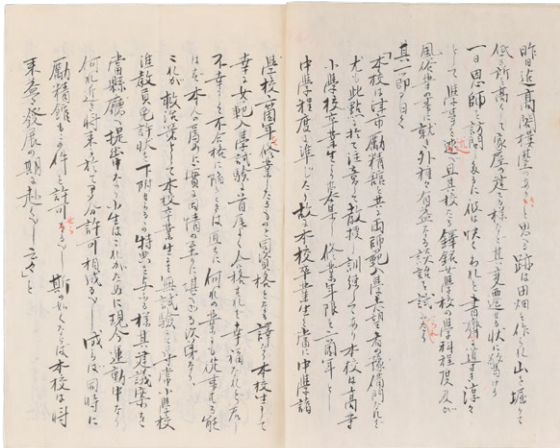
開校当初、鐸鳴女学校は亀山尋常小学校(現・亀山西小学校)の東端の1教室を使っていました。そのため、小学校の正門は、右に「亀山尋常小学校」、左に「私立鐸鳴女学校」の看板がかかっています。



1-3 私立鐸鳴女学校学則

明治42年(1909) 亀山市歴史博物館

明治42年3月に改正された学則です。鐸鳴女学校の学科・修業年限・授業科目・授業料等を定めています。学校には、2年間の本科と3年間の裁縫科があり、さらに両科を修めた学生に対する2年間の補習科が設けられていました。特に注目すべきは、本科の入学対象者が、小学校教員、女子師範入学、高等普通教育希望者となったことです。本校が女子師範入学のための学校との位置づけから一歩進み、小学校教員となることもできる女子中等教育機関となりました。



1-2 作文「冬期休業中自己の見聞したる事項」

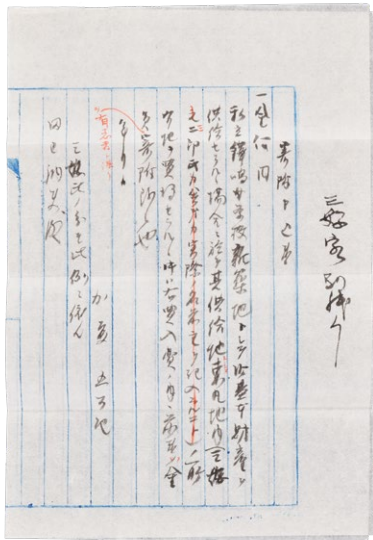
明治41年(1908) 亀山市歴史博物館

三重県師範学校本科の学生が、教師に聞き取った鐸鳴の課題をまとめた作文です。鐸鳴は、女子師範入学の「予備門」とされているものの、女子師範の不合格者には道がないため、卒業生に尋常小学校准教員免許状を無試験で下付する運動を進めている旨を述べています。翌42年、本運動が実り、卒業生に准教員免許が発行されることとなりました。

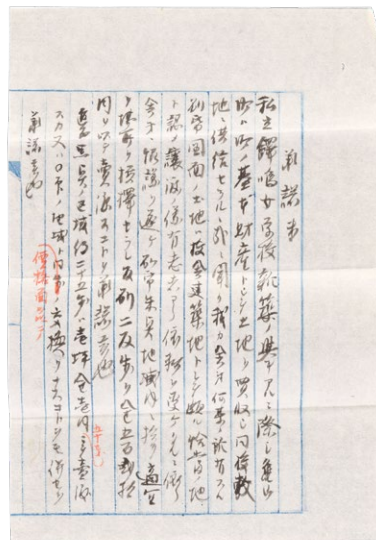


1-4 私立鐸鳴女学校絵葉書 明治時代 加藤尚大家

明治42年(1909)に新築された2階建ての校舎です。亀山町大字亀山東丸(現・東丸町)に建てられました。絵葉書には「SUZUNARU」とあるので、「鐸鳴」は「すずなる」とも読まれていたのかもしれませんが。



1-5 寄附申込書草稿

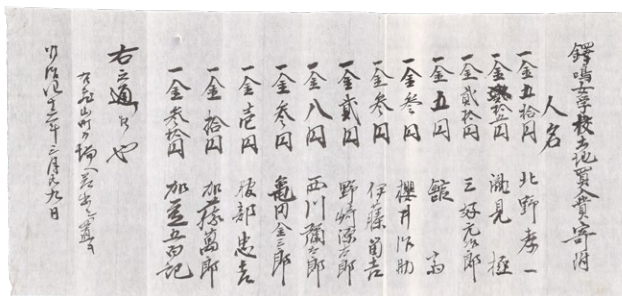


1-6 承諾書草稿

1-5 寄附申込書草稿

1-6 承諾書草稿

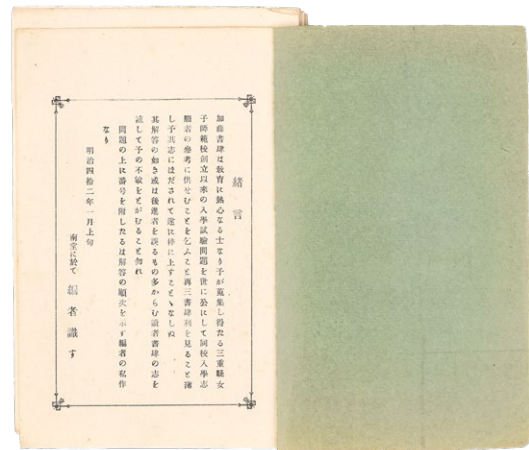
明治42年(1909)か 亀山市歴史博物館
新築した東丸の校舎 [No.1-4] の敷地
は、亀山町が民有地を買い上げました。鐸
鳴は私立学校でしたが、こうした状況から
も亀山町立に近い扱いを受けていたことが
わかります。



1-7 鐸鳴女学校土地買入費寄附

明治42年(1909) 亀山市歴史博物館

明治42年3月29日付けの校舎用地購入費寄附者一
覧です。土地購入のため、鈴鹿郡長をはじめとする、亀
山町内の有力者が資金を寄附しました。



1-8 三重県女子師範学校入学試験問題集

付解答並入学志願者心得

明治42年(1909) 加藤尚大家

鐸鳴の専任教員である神崎甲子郎が編さんしました。
鐸鳴が、女子師範の予備校的な位置づけを持っていたこ
とを裏付けるものといえます。女子師範設立の明治37
年(1904)から41年(1908)までの入学試験問題
と解答をセットにしたもので、明治42年に加藤書店か
ら発行されました。加藤書店の加藤万郎は、同年に鐸
鳴の校舎用地購入寄附を行っており [No.1-7]、支援者の
ひとりとして刊行にたずさわったともいえます。



1-9 神崎修君凱旋記念 昭和時代 八木家

前列中央の老人が、専任教員で三重県女子師範学校入
学試験問題集 [No.1-8] を編さんした神崎甲子郎です。

(2) 鈴鹿高等女学校

鈴鹿高等女学校は、大正10年(1921)、郡立学校「三重県鈴鹿高等女学校」として誕生しました。同年、郡制廃止にともない、組合立学校「鈴鹿郡亀山町外十八ヶ町村学校組合立鈴鹿高等女学校」となり、大正12年(1923)、県立学校の認可を受け「三重県立鈴鹿高等女学校」となりました。校舎は、三重県女子師範学校の東隣に新設され、順次整備されました。

県立学校となって以後は、本科のみで1学年100名、全校400名規模となり、多くの生徒が亀山・関から通いました。

校地が隣接し、校長も兼務の女子師範学校とは、昭和8年(1933)から18年(1943)まで校地・校舎を共用し、教育活動も両校一体で行いました。

学校の終わりは、戦後の学制改革によってもたらされました。学制改革により、学校体系は六・三・三・四の編成となりました。そして、昭和22年(1947)3月公布の学校教育法によって、新制中学校・新制高校が発足します。これにともない、亀山実業学校と統合し、新制高校である亀山高等学校が誕生しました。

校舎



1-14 三重県鈴鹿高等女学校全景絵葉書

大正時代 加藤尚大家

大正11年(1922)3月末に、亀山町大字東町(現・本町、亀山高校の地)に完成した新校舎。鈴鹿高女は、鐸鳴の校舎と今も残る亀山城多門櫓を校舎としていましたが、教室数が大きく不足し、新たな地に新校舎を建設しました。



1-15 卒業記念集合写真 大正時代 亀山市歴史博物館

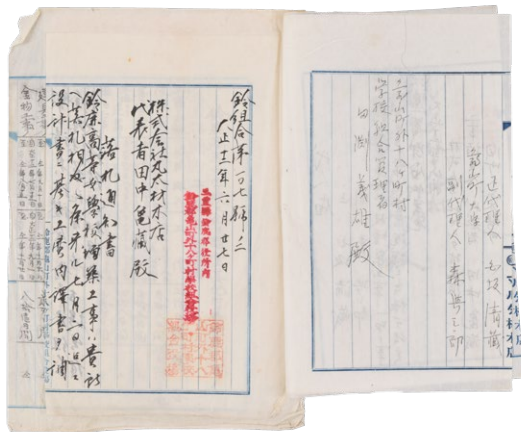
県立鈴鹿高女の卒業写真。定員は1学年100名です。撮影場所は、大正11年(1922)築の校舎[No.1-14]の正面玄関前です。屋根には鬼瓦[No.1-16]が葺かれています。



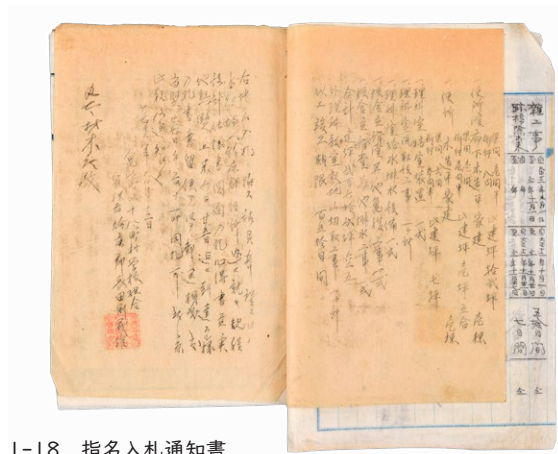
鬼瓦製作銘板

1-16 鬼瓦 大正時代 三重県立亀山高等学校

鈴鹿高女の校舎玄関の屋根に葺かれていた鬼瓦。文様は、鶴と雲水。背面の製作銘板には、亀山町三本松の笹山瓦製造場の製作、川崎村徳原四ツ辻の伊藤貢の細工であると刻んでいます。



1-17 落札通知書



1-18 指名入札通知書

1-17 落札通知書

1-18 指名入札通知書 大正12年(1923) 亀山市歴史博物館

鈴鹿高女の新築校舎・講堂等の建設にかかる書類。本工事は、関町の株式会社マルタ材木店が落札しました。学校は、大正12年4月に組合立から県立となりましたが、建築工事は、鈴鹿郡役所内にある鈴鹿郡亀山町外十八ヶ町村学校組合役場が担っていました。



1-19 校舎正面(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和4年)
昭和4年(1929) 亀山市歴史博物館
上段が、大正13年(1924)に完成した講堂です。

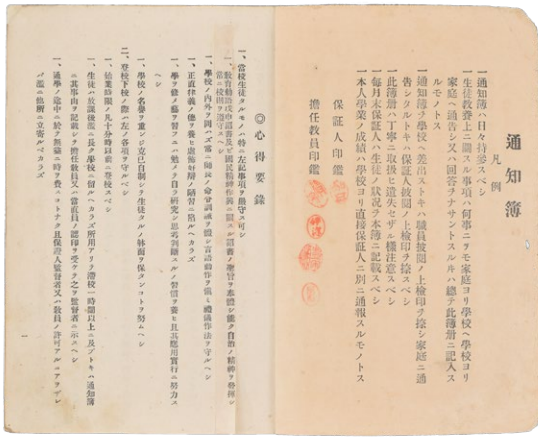


1-20 校友会誌 第1号~第3号

大正12年(1923)~14年(1925) 亀山市歴史博物館
校友会は「生徒ノ学芸運動ヲ奨励シ校風ヲ振作スル」目的で創設されました。第1号では、学校の沿革を紹介し、校舎建設にあたっては、亀山町から5,000円を筆頭に、鈴鹿郡を中心とした地域の有力者からの寄附がありました。

また、大正12年4月に県立学校となり、校名も変わりました。表紙記載の校名も、第1号の「三重県鈴鹿高等女学校」から、第2号の「三重県立鈴鹿高等女学校」へと変化しています。

学校生活



I-21 通知簿

大正11年(1922)～15年(1926) 亀山市歴史博物館
 大正11年本科入学生徒の4年間の通知簿。心得要録、出欠席表、身体検査表、通信事項からなっています。心得要録には、学校生活のみならず家庭生活におよぶ細かな決まりがあります。2人以上で通学、校内左側通行、毎日約2時間の復習などです。



I-23 卒業生集合写真

(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和4年)
 昭和4年(1929) 亀山市歴史博物館

制服は、和服に2本の白線を縫い付けたえび茶色の袴でした。心得要録[No.1-21]によると、和服は木綿地、袖は筒袖か元禄袖、衿はメリンスやキャラコの白色、袴は木綿のえび茶色で裾に2本の白線を付けることと決められていました。

I-22 生徒学業成績通知表

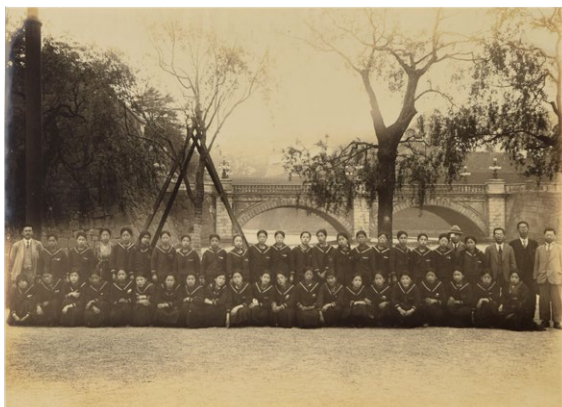
大正11年(1922)～15年(1926) 亀山市歴史博物館
 大正11年本科入学生徒の4年間の成績通知表。4年間で、修身・国語・歴史・地理・数学・理科・図画・家事・裁縫・音楽・体操・英語・教育を履修します。評価は「甲乙丙丁」の4段階で、学年末には1～3年生で進級、4年生で卒業の判定がなされます。



I-24 関東旅行集合写真

(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1932)
 昭和7年(1932) 亀山市歴史博物館

昭和5年(1930)、制服がセーラー服となりました。和服期の袴の裾の2本白線を引き継ぎ、上着の襟・袖口・胸ポケットにつけられた2本の白線が特徴です。昭和7年の集合写真ですが、移行期のため、和服とセーラー服の生徒が混在しています。



1-25 卒業生集合写真

(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1934)

昭和9年(1934) 亀山市歴史博物館

制服が、全員セーラー服となりました。



1-26 鈴鹿高等女学校卒業記念集合写真

昭和23年(1948) 谷川家

学制改革により、昭和23年、3年生で鈴鹿高女を卒業した生徒たちです。制服は、昭和17年(1942)変更のへちま襟と以前のセーラー服が混在し、もんぺをはいています。



1-27 鈴鹿高等女学校通学かばん



1-28 養老修学旅行集合写真



1-29 東京修学旅行集合写真

1-27 鈴鹿高等女学校通学かばん

昭和時代 亀山市歴史博物館

1-28 養老修学旅行集合写真

(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2599)

昭和10年(1935) 亀山市歴史博物館

1-29 東京修学旅行集合写真

昭和14年(1939) 天野家

通学かばんは、カーキ色の布製でした [No.1-27]。1年生の養老修学旅行 [No.1-28] や4年生の東京修学旅行 [No.1-29] の集合写真から、肩掛けかばんであったことがわかります。

創立十周年記念行事



I-30 運動会（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和4年）

昭和3年（1928） 亀山市歴史博物館

運動会の服装は、ハチマキに白色の半袖襟付きワンピースのようです。2色に分かれるためか、黒色のノースリーブワンピースを白色半袖ワンピースの上に着用している生徒もいます。



I-31 伝鈴鹿高等女学校制服

昭和時代 亀山市歴史博物館

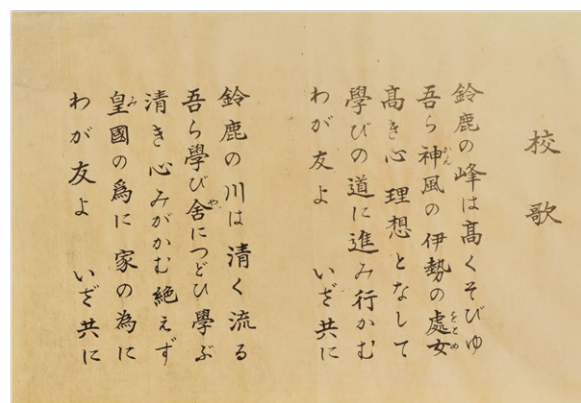
鈴鹿高女の制服と伝えられています。運動会の黒色のノースリーブワンピースに類似しているようです [No. I-30]。



I-32 校旗（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1932）

昭和7年（1932） 亀山市歴史博物館

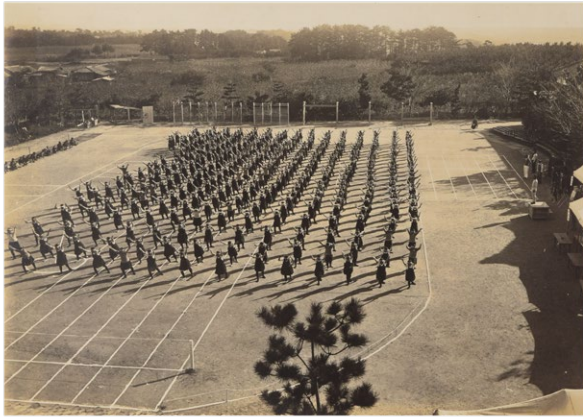
校章を制定しました。^{やたのかがみ}八咫鏡の中に^{なでしこ}撫子の花弁、中央に鈴を配置したデザインです。校章制定とともに校章をあしらった校旗も制作しました。



I-33 校歌（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1932）

昭和7年（1932） 亀山市歴史博物館

校歌も制定しました。作歌は佐佐木信綱、作曲は片山 頴太郎です。佐々木は、鈴鹿郡石薬師村出身の歌人で万葉集研究者です。片山は、東京音楽学校（現・東京芸術大学）本科作曲部で指導していました。当時、多くの学校が東京音楽大学に校歌、寮歌などの作曲依頼を行っており、鈴鹿高女も依頼したものと思われます。



I-34 記念運動会 全校生徒合同体操



I-35 記念音楽会

I-34 記念運動会 全校生徒合同体操（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1932）

I-35 記念音楽会（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1932） 昭和6年（1931） 亀山市歴史博物館

記念運動会は、昭和6年11月1日に行いました。No.I-34は、全校生徒のダンス（ラジオマーチ）とみられます。

記念音楽会は、同年11月3日、講堂で行いました。正面緞帳の上に校章、舞台左に制定された校章・校旗をお披露目しています。4年生は校歌の三重唱を発表しました。

三重県女子師範学校との校地・校舎共用

昭和8年（1933）、隣接する三重県女子師範学校と校地と校舎を共用するという新体制が始まりました。学校長が両校兼任であったことから、元来、姉妹校のような存在でした。共用にともない、鈴鹿高等女学校は校舎を移動しました。また、先生も両校を兼任、行事も合同で行うなど、さまざまな変化がありました。新たな校歌の制定をみると、“合併”ともいえるような面もあったのではないかと考えられます。

① 記念行事

校地校舎共用記念として、奉安殿および講堂が新築されたほか、昭和9年（1934）10月30日から11月3日まで、記念式、音楽会、運動会、展覧会などが行われました。



I-36 講堂落成式

（三重県女子師範学校卒業記念写真帖昭和10年）

昭和9年（1934） 亀山市歴史博物館

各種記念行事の式典は、新築の講堂で行いました。



1-37 記念絵葉書



1-39 亀山名所

1-37 記念絵葉書（三重県女子師範学校・三重県立鈴鹿高等女学校）

1-38 昭和八年亀山町勢一班



1-38 昭和八年亀山町勢一班

昭和9年（1934）亀山市歴史博物館

1-39 亀山名所 昭和9年（1934）か 亀山市歴史博物館

記念式典で配られた記念品。絵葉書は、新築の奉安殿と講堂、陰涼寺山の国旗掲揚台と御成山の写真で、二校連名の封筒に入っています [No.1-37]。

亀山町勢一班は、昭和8年（1933）の亀山町内の状況のまとめです。各種学校の項目には、二校の教員・学級・生徒数が載っています [No.1-38]。亀山名所は、亀山町全景・亀山町役場と石井兄弟敵討の碑・亀山城跡の2枚の絵葉書です [No.1-39]。ともに、表に「亀山町寄贈」と刷られており、記念式典のために亀山町の資金で作られました。



I-40 記念音楽会



I-42 記念運動会ラジオ体操



I-41 記念音楽会



I-43 子供教育展覧会

I-40 記念音楽会（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2595）

I-41 記念音楽会（三重県女子師範学校卒業記念写真帖昭和 10 年）

I-42 記念運動会ラジオ体操（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2595）

I-43 子供教育展覧会（三重県女子師範学校卒業記念写真帖昭和 10 年）

昭和 9 年（1934） 亀山市歴史博物館

記念音楽会は、昭和 9 年 11 月 2 日に行いました。鈴鹿高女 4 年生は「歓喜の歌」の三部合唱 [No. I-40]、女子師範 5 年生は「荒城の月」「埠頭の朝」の二部合唱 [No. I-41] を発表しました。

記念運動会は、同年 11 月 3 日に行いました。両校合同でラジオ体操をしています [No. I-42]。

子供教育展覧会は、11 月 1 日から 3 日にかけて催しました。1 教室 1 テーマの計 10 教室で発表し、No. I-43 は第 9 室の衣服をテーマにしたものです。

② 正 門



I-44 三重県女子師範学校・三重県立鈴鹿高等女学校
正門(三重県女子師範学校卒業記念写真帖昭和 13 年)

昭和 13 年（1938） 亀山市歴史博物館

二校の正門は、女子師範の正門を使うことになり、正門の左右にそれぞれの看板をかけました。右に「三重県女子師範学校」、左に「三重県立鈴鹿高等女学校」の看板がかけられています。

③ 校歌

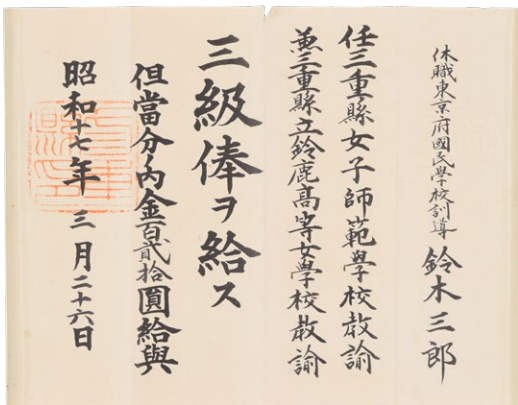


I-45 校旗・校歌（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2599）

昭和 14 年（1939） 亀山市歴史博物館

新たな校歌を制定しました。作歌は以前と同じく佐佐木信綱ですが、作曲は信時潔となりました。信時も、東京音楽学校（現・東京芸術大学）の本科作曲部の教授です。

④ 学校生活



I-46 辞令

I-46 辞令 昭和 17 年（1942） 亀山市歴史博物館

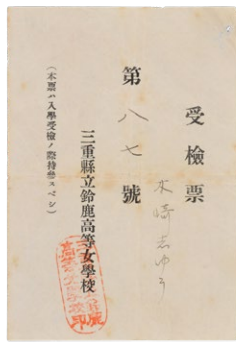


I-47 職員集合写真

I-47 職員集合写真（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1934） 昭和 9 年（1934） 亀山市歴史博物館

教職員も二校兼任となりました。辞令も、女子師範と鈴鹿高女の教諭兼任を命じています [No. I-46]。

共用期最初の昭和 8 年度の卒業アルバムに載る職員集合写真は、二校の玄関となった女子師範玄関前で両校の教職員全員を写します [No. I-47]。



1-48 受検票

昭和11年(1936) 木崎嘉秋家

昭和10年度の入学試験の受験票です。



1-51 教科書

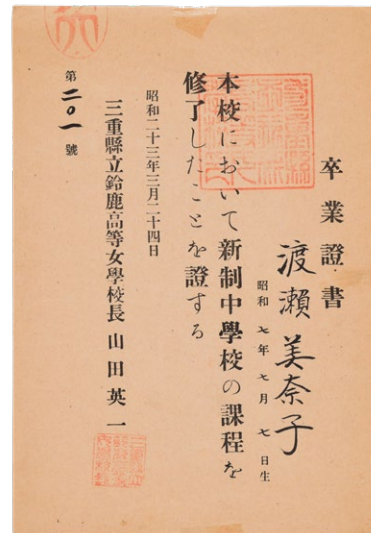
昭和3年(1928)~14年(1939)発行 西川真智子家

昭和11年(1936)から昭和18年(1943)に鈴鹿高等女学校に通った姉妹が使用した教科書。修身・国語・外国語・歴史・地理・公民・数学・理科・家事・教育・実業の各科があります。姉妹で同じ教科書を使っていますので、数年間は教科書が変わらなかったことがわかります。



1-49 身分証明書 昭和15年(1940) 木崎嘉秋家

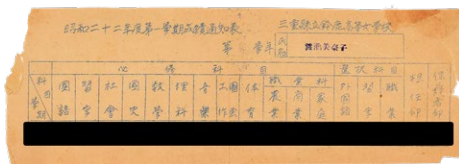
写真を貼付した身分証明書です。裏面の厳守事項に、鉄道係員の請求に応じて呈示することとあります。本書の所有者は、関町からの通学に国鉄を利用していましたので、その際に必要とするのもあったのではないのでしょうか。



1-52 新制中学校課程修了証書

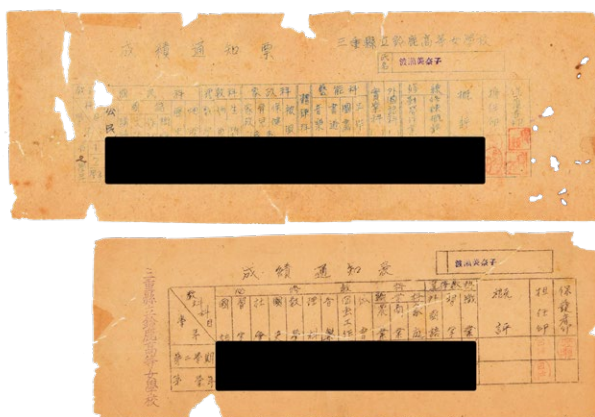
昭和23年(1948) 山中美奈子家

新制高校の誕生にあわせ、3年生には新制中学校課程修了証書が発行されました。その後の進路は、新制高校である亀山高校への進学が社会へ出ることとなりました。



1-50 成績通知表 昭和20年(1945)~22年(1947) 山中美奈子家

昭和20年度、鈴鹿高等女学校入学生徒の通知表。評価は「優・良・可」の3段階です。1年生の昭和20年度は、戦争の影響か1学期の成績はなく、2学期と学年の成績のみです。2年生の通知表は科目が細かく分かれるものの、3年生の通知表(昭和22年度)は再び1年生時と同じ科目分けとなっています。学校も揺れ動いていた時期であったことを示しているのではないのでしょうか。



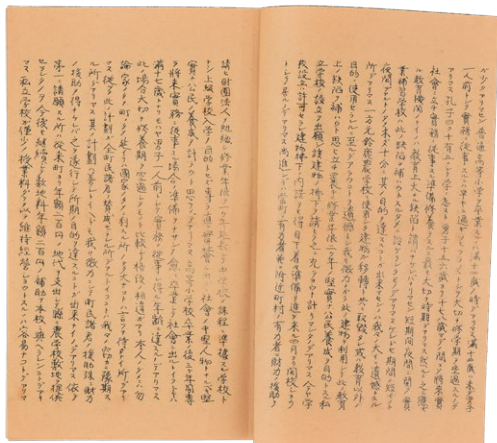
(3) 亀山公民学校

県立鈴鹿農学校が、合併により県立河原田農学校となって移転したことにともない、亀山町内には、男子の中等教育機関がなくなりました。そこで、高等小学校卒業生が通う私立学校の設立が計画されました。

昭和4年(1929)、私立亀山公民学校の設立が認可され、翌5年に開校しました。設立には、地域の有力者、教育者が名を連ね、また亀山町も資金を援助しました。

開校当初、校舎は、善導寺(亀山町大字西町)の幼稚園跡を使用しましたが、昭和6年、払下げられた鈴鹿農学校(亀山町大字亀山南崎)へ移りました。2年の修業年限は、1年課程で修了、2年課程で卒業と運用しました。亀山町が国鉄の町であったため、国鉄就職希望者も多く、学校も就職教育に熱を入れたことから、国鉄予備校のイメージがありました。

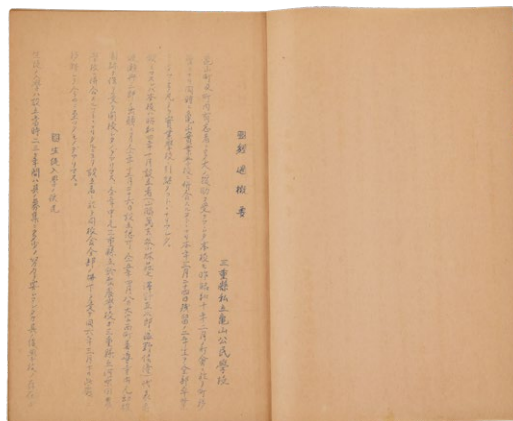
昭和10年(1935)、町立移管が決まり、町立亀山実業学校へと引き継がれます。翌11年3月に最後の卒業生を送り出し、幕を閉じました。



I-53 請願書

昭和5年(1930) 亀山市歴史博物館

昭和5年2月24日に、私立亀山公民学校創設者4名(渡瀬与三郎・山脇萬吉・小林莊七・澤野直次郎)から亀山町長宛てに出された書類。公民学校設立目的と現状を記しています。町内に高等小学校卒業後の男子の教育を補う私立学校を創設したく、敷地料を含めて年額1,000円の補助を依頼しています。



I-54 三重県私立亀山公民学校経過概要

昭和11年(1936) 加藤尚大家

亀山公民学校を亀山実業学校に引き継ぐにあたり、作成された書類。経過概要、生徒入学の状況、卒業生、卒業及修了後の状況、職員表などの項目が記されています。生徒は、入学・卒業ともに亀山町出身者が最多、修了生・卒業生の多くは国鉄に就職しました。



I-55 鈴鹿郡立農学校絵葉書

明治45年(1912) 加藤尚大家

昭和6年(1931)、払下げられた亀山町大字亀山南崎の元鈴鹿農学校へ移ります。絵葉書は、設立した明治45年の農学校の姿ですが、後の公民学校の校舎でもあります。



I-56 萬葉集正訓 卷一上・卷十一下

昭和2年(1927)・11年(1936) 亀山市歴史博物館

本書の執筆者は、亀山公民学校の創設者のひとりで学校長を務めた山脇萬吉です。山脇は、学校では国語漢文を担当していました。教師でもありましたが、万葉集の研究者でもありました。長年の研究成果を『万葉集正訓』としてまとめていましたが、巻十一下まで執筆したものの未完のまま亡くなりました。



I-58 幼学綱要読本

昭和8年(1933) 亀山市歴史博物館

亀山公民学校の蔵書。表紙には「三重県私立亀山公民学校」の蔵書ラベル、書籍内には蔵書印「私立亀山公民学校印」が押されています。昭和9年(1934)に寄贈を受けました。



I-57 紙本着色子供遊戯図 近代 亀山市歴史博物館

亀山公民学校で図画を担当していた佐久間準三による作品です。

(4) 亀山実業学校

亀山町内に公立の男子中等教育機関を設置したいとの意向に加え、地域の有力者の推進により、昭和10年(1935)、私立亀山公民学校は亀山町に移管されました。同年4月、町立亀山実業公民学校が誕生。組織を整え、10月、町立三重県亀山実業学校を開校しました。

学校は、義務教育である初等教育修了で受験、入学できました。校舎は、当初、亀山町大字亀山南崎でしたが、昭和16年(1941)、亀山町大字亀山西丸の新校舎へ移りました。変化はありますが、商業科・農業科・機械科を設けました。また、昭和18年(1943)には、町立文化女学校の一部を改組して女子部を設置しました。

授業は、販売実習などの商業実習、農作物栽培などの農業実習といった実習教育に主眼を置きました。また、国鉄就職希望者に対して補習授業や課外授業を行い、多くが国鉄へ就職しました。しかし、日中戦争、太平洋戦争と戦時下での教育を余儀なくされ、教育内容も変化していきました。

昭和23年(1948)4月に県立認可、翌月5月に鈴鹿高等女学校と統合し、新制高校である亀山高等学校となりました。



1-59 校門・校舎

(三重県亀山町立亀山実業学校卒業アルバム 2598)

昭和13年(1938) 亀山市歴史博物館

校舎は、亀山町大字亀山南崎にあった亀山公民学校の校舎を使用しました。写真には、校名「三重県亀山実業学校」の看板をかけた校門、奥に校舎が写っています。



1-60 校舎 昭和時代 亀山市歴史博物館

昭和16年(1941)、亀山町大字亀山西丸(現・亀山中学校敷地)に新校舎が建設されました。上段の奥に写る校舎が、西丸の新校舎です。



1-61 集合写真

(三重県亀山町立亀山実業学校卒業アルバム 2598)

昭和13年(1938) 亀山市歴史博物館

学生服に学生帽をかぶって通っていました。学生帽には、2本の白線があり、六稜星の中に実業の「實」を配した意匠の校章をつけています。



I-62 珠算競技会

(三重県亀山町立亀山実業学校卒業アルバム 2598)

昭和 13 年 (1938) 亀山市歴史博物館

亀山実業は、就職後に役立つということで珠算教育に力を入れていました。写真は学校対抗の珠算競技会の様子です。

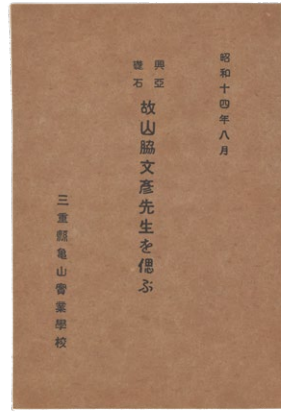


I-63 農業実習

(三重県亀山町立亀山実業学校卒業アルバム 2598)

昭和 13 年 (1938) 亀山市歴史博物館

商業科・農業科ともに農業実習を行っていました。写真は学校南の農場での農作業です。

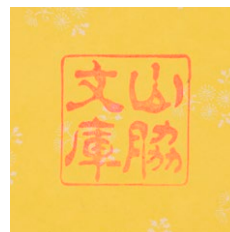


I-64 興亜礎石 故山脇文彦先生を偲ぶ

昭和 14 年 (1939) 亀山市歴史博物館

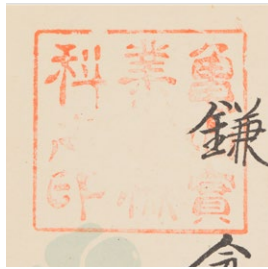
山脇文彦は、昭和 12 年 (1937) に亀山実業に着任し、国語を担当しました。翌 13 年に日中戦争へ出征、14 年に戦死しました。本書は、山脇先生を偲び、学校長以下、先生、生徒が寄せた追悼文集です。

また、本書によれば、亀山実業着任は、父である萬吉が亀山公民学校の創設に尽力したことから、自分もその後継の学校の発展に尽くしたいとの考えによるものでした。



I-65 山脇文庫 昭和時代 亀山市歴史博物館

「山脇文庫」は、ゆかりある山脇家から、亀山実業へ寄贈された図書です。朱印「山脇文庫」の押印、蔵書ラベルの台帳番号で「山」と分類されています。



I-66 亀山実業学校蔵書 昭和時代 亀山市歴史博物館
 亀山実業の蔵書です。「三重県亀山実業学校報国団印」「亀山実業機械科之印」の2種の朱印が押されています。学校報国団は、昭和16年(1941)の文部省訓令によって、各校に設置されたものです。また、機械科は、昭和19年(1944)に商業科を廃止して設置されました。



I-67 風信器 創刊号
 昭和23年(1948) 亀山市歴史博物館
 三重県立亀山実業学校科学研究雑誌の創刊号。本誌は、昭和23年4月10日に発行されており、1日付けで県立学校となったばかりの時です。編集期間の関係か、発行は「三重県立亀山実業学校」ですが、本誌所有者は「三重県立亀山実業学校」と新校名を書いています。翌5月23日に亀山高校が創立しており、まさに亀山実業の教育最後の成果を記録したものといえます。

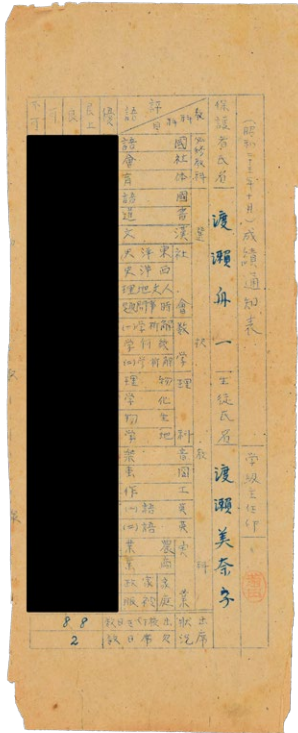
2 亀山高校の昭和時代 ～芽吹きから確立～

亀山高等学校は、戦後の学制改革にともない、新制高校として昭和23年（1948）5月23日に「三重県亀山高等学校」として誕生しました。戦前の複雑な制度から新たな学制に準拠した新制高校を運営することは、非常に苦労がともないました。

亀山高等学校は、鈴鹿高等女学校の校舎をそのまま使用する形で始まったため、まずは教室数の確保や特別教室の準備など校舎を整えることが急務となりました。亀山高等学校の芽吹きは、その形を整えることから始まったといえます。学校の形や制度を整え、「亀山高校」を確立した昭和時代について、ご紹介します。

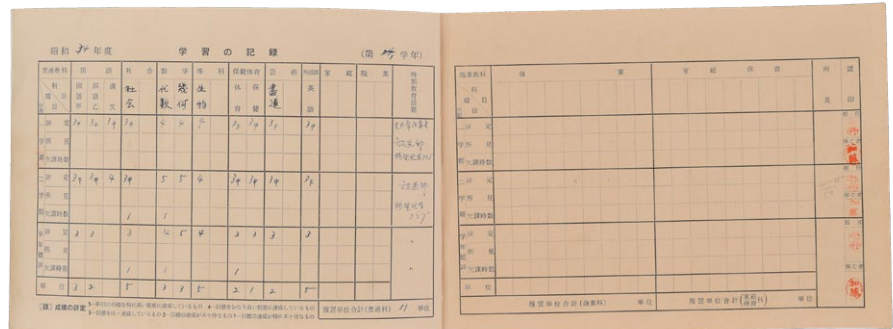
(1) 制度整備

新制高校として歩み出した当初は、まだまだ学校の制度も整っていませんでした。学校名や学期制度、成績評価など、亀山高等学校の制度は、変化しながら整えられました。



2-1 成績通知表 昭和23年(1948) 山中美奈子家

亀山高校に初めて生徒が通ったのは、昭和23年5月31日の対面式でした。スタートの遅れ、設備不足による授業の混乱などがあり、昭和23年度は前期・後期の2期制でした。通知表が10月付けですので、前期は10月までだったことになります。

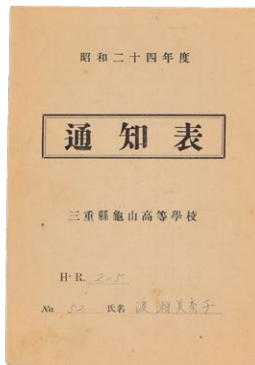


2-3 通知簿

昭和34年度(1959)～36年度(1961) 加藤家

昭和26年度(1951)からは、3学期制となりました。

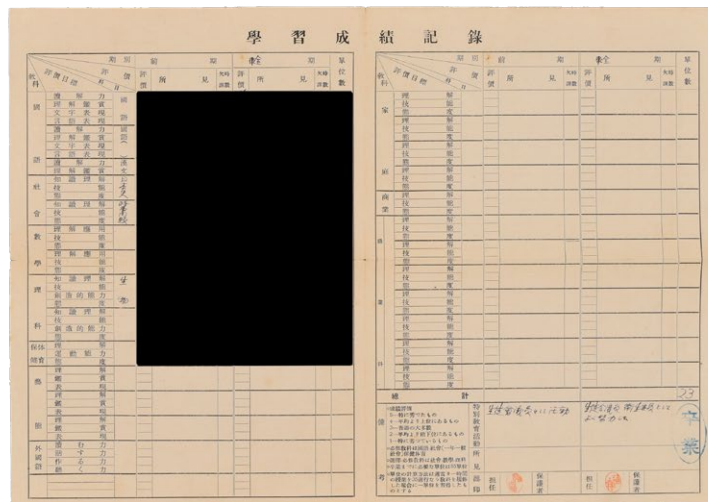
3年間1冊の通知簿であることも特徴です。

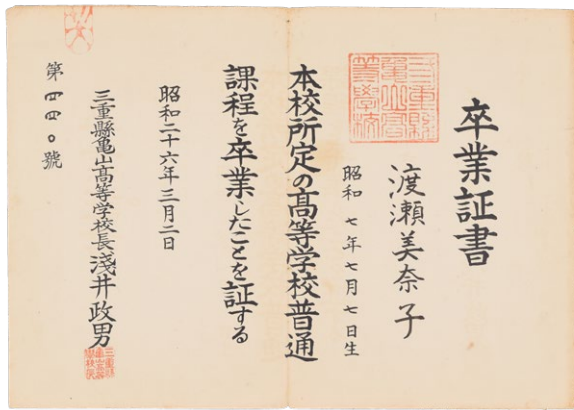


2-2 通知表

昭和24年(1949)・25年(1950) 山中美奈子家

前期・後期の2期制は、昭和25年度まで続きました。評価方法は、昭和23年度は「優・良・可・不可」でしたが[No.2-1]、翌24年度からは5段階評価に変わりました。

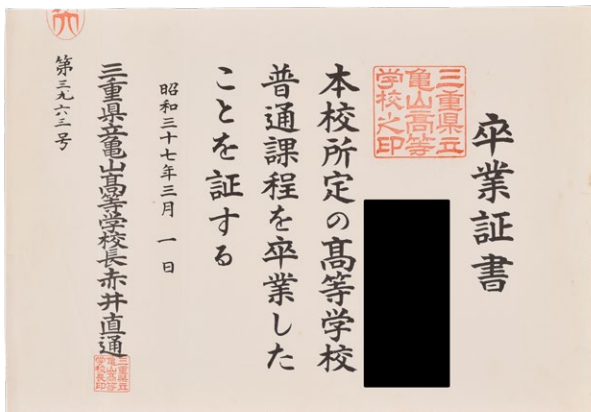




2-4 卒業証書 昭和26年(1951) 山中美奈子家
 亀山高校創立の昭和23年(1948)に入学した学年は、昭和26年に卒業しました。校長名の肩書きにあるように、創立当初の学校名は「三重県立亀山高等学校」でした。



2-6 亀山高等学校銘提灯 昭和時代 亀山市歴史博物館
 校名が「三重県立亀山高等学校」であった、昭和23年(1948)から30年(1955)の間につくられた提灯です。鈴鹿高女から引き継がれた講堂 [No.1-36] にかけていたそうです。



2-5 卒業証書 昭和37年(1962) 加藤家
 昭和30年度(1955)に学則が制定され、学校名も現在と同じく「三重県立亀山高等学校」となりました。



2-7 昭和24年度卒業生(卒業アルバム1950)
 昭和25年(1950) 三重県立亀山高等学校
 昭和24年度第2回亀山高校卒業生です。旧制中学校から新制高校へ移り、学科も普通科のみでした。新制高校の制度整備が進む中、高校生活を過ごしました。

(2) 校舎整備

昭和23年(1948)、創立したばかりの亀山高等学校は、母体となった鈴鹿高等女学校の校舎をそのまま利用しました。生徒は、元鈴鹿高等女学校の生徒以外に、元亀山実業学校の生徒もいます。翌年には、小学区制によって鈴鹿郡在住の生徒が亀山高等学校へ通うことになり、さらに生徒数が増えます。亀山高等学校は、たちまち教室不足となっていました。そこで、昭和20年代後半から30年代は校舎整備に邁進することとなりました。

ようやく形が整ってきたところで、次は、昭和20年代に建設された校舎の改築時期を迎えます。昭和40年代後半から50年代のことでした。いずれの時期も、亀山町・亀山市、PTA、同窓会組織の丘友会などが、校舎改築費用を拠出し、高校を支えました。



2-8 玄関つき木造二階建て校舎(旧第二校舎)
(卒業アルバム1953)

昭和28年(1953) 亀山市歴史博物館

亀山町の資金で建築され、昭和24年(1949)に完成しました。前身の亀山実業学校を町立から県立学校に認可する際、町費で講堂を建設し県に寄附することを条件としていたものの、新制高校となったため、代わりに町費で校舎を建設したものです。



2-10 学校防護表彰状

2-10 学校防護表彰状 昭和27年(1952) 三重県立亀山高等学校



2-9 木造二階建て校舎(旧第一校舎)

昭和時代 伊藤真次家

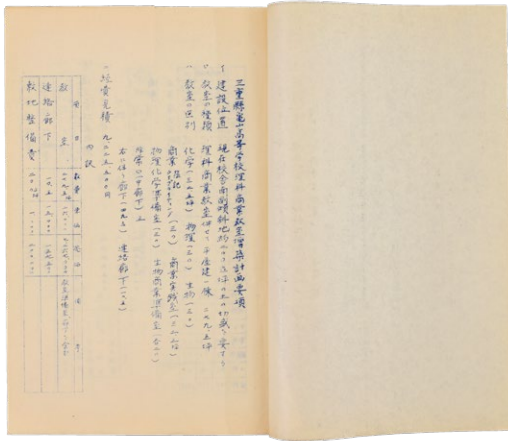
玄関つき木造二階建て校舎[No.2-8]の手前が、昭和25年(1950)に建てられた新校舎です。校舎は、木造二階建てで8教室ありました。



2-11 亀山高校新聞 第11号1面

2-11 亀山高校新聞 第11号1面 昭和27年(1952)7月14日発行 三重県立亀山高等学校

新制高校となり、2棟の新校舎を建てました[No.2-8・2-9]。しかし、昭和27年5月6日夜、隣接する三重大学附属亀山小・中学校から出火し、亀山高校の校舎にも火の手が及びました。先生、生徒らの防火により、講堂屋根の延焼のみに抑えることができました。



2-12 三重県亀山高等学校理科商業教室増築計画要項
昭和27年(1952) 亀山市歴史博物館

普通教室は整ったものの、特別教室が不足していました。そこで、理科・商業関係教室の建設を計画しました。計画では、平屋建て1棟の校舎で、建設見込費の50%を地元負担とし、PTAと町村で資金を拠出することとしていました。



2-13 校舎航空写真(北から)
昭和時代 三重県立亀山高等学校

昭和29年(1954)1月、新たに理科商業棟が完成しました。最も南に写っています。



化学教室



物理教室

2-14 理科商業棟(卒業アルバム1955)

昭和30年(1955) 亀山市歴史博物館

完成した理科商業棟は木造二階建てで、1階には化学教室、物理教室、生物教室、2階には、簿記教室、商業実践室などが入りました。さらに、屋上には、鉄骨木造の天体観測室を備えました。



2-15 亀山高校新聞 第20号1面

昭和29年(1954)2月1日発行 三重県立亀山高等学校

ガス、給水等の施設も完備した県下でも有数の教室と評価しています。建設にあたり、学区内市町村が374万円、PTAが100万円を負担しました。これは総工費の約40%にあたります。



2-16 建設中体育館 昭和36年(1961) 伊藤真次家

亀山高校の体育館は、鈴鹿高女の雨天体操場兼講堂を使っており、体育館建設を待望していました。体育館の起工式は、昭和36年5月に行われました。写真は建設中の体育館です。



2-17 体育館



2-20 亀山高校新聞 第58号2面

2-18 体育館兼講堂落成記念絵葉書



2-19 体育館兼講堂落成記念手拭い

2-17 体育館 昭和37年(1962) 伊藤真次家

2-18 体育館兼講堂落成記念絵葉書 昭和37年(1962) 加藤家

2-19 体育館兼講堂落成記念手拭い 昭和37年(1962) 亀山市歴史博物館

2-20 亀山高校新聞 第58号2面 昭和37年(1962)3月1日発行 三重県立亀山高等学校

昭和37年、体育館兼講堂が完成しました。落成記念式典が2月17日に行われ、記念品として絵葉書と手拭いが配られました。亀山高校新聞も体育館落成記念面を作っています。総工費2400万円のうち、PTAと寄附金によって1700万円を拠出したとあり、まさに父兄を中心とした地元の力で建設された施設でした。



2-21 建設中第四棟

2-21 建設中第四棟 昭和時代 伊藤真次家

2-22 建設中第四棟 昭和時代 個人



2-22 建設中第四棟

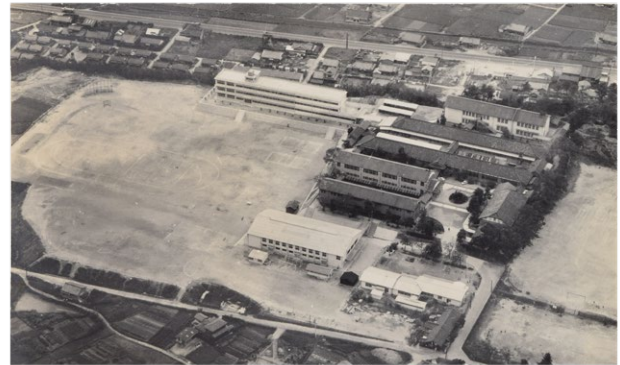
昭和 37 年（1962）から、第四棟の建設が始まりました。工事は 2 期にわけられ、第 1 期で西半分、第 2 期で東半分を建設しました。写真は、昭和 37 年から 38 年にかけて行われた第 1 期工事の様子です。



2-23 第四棟

2-23 第四棟（卒業アルバム 1965） 昭和 40 年（1965）天野家

2-24 東京オリンピック記念校舎航空写真（北から） 昭和 39 年（1964）天野家



2-24 東京オリンピック記念校舎航空写真（北から）

昭和 39 年 3 月末に完成した新校舎（第四棟）は、亀山高校初の鉄筋コンクリート三階建ての校舎です。校舎は、グラウンドの南にあった松林の丘を削って建設され、以前の航空写真 [No.2-13] と比べると、新校舎の建設とともにグラウンドも広がっています。



2-25 登校風景 (卒業アルバム 1963)

昭和 38 年 (1963) 個人

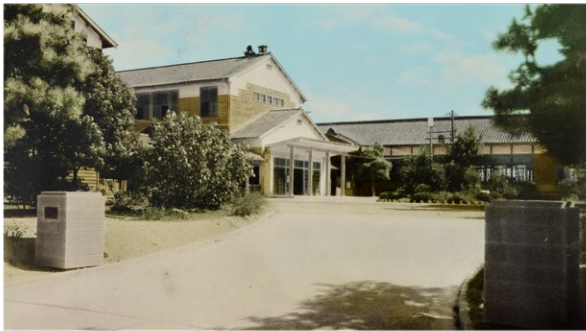
亀山高校の校門は、昭和 24 年 (1949) に玄関つき木造二階建て校舎 [No.2-8] を建てた際、鈴鹿高女時代から使われていた校門がなくなり、その後、設置されていませんでした。長らく、校門のない風景が続いていました。



2-27 校門

昭和 53 年 (1978) 建設 三重県立亀山高等学校

現在の校門は、昭和 53 年に設けられました。昭和 40 年代後半から 50 年代にかけて、昭和 20 年代に建設された校舎の改築が進められました。その際、同窓会組織である丘友会きゅうゆうかいは、校舎改築費用の募金活動を行いました。校門は、その資金の一部で建設されました。



2-26 校門 (卒業アルバム 1965)

昭和 40 年 (1965) 天野家

昭和 39 年 (1964)、校門が設置されました。



2-28 追憶之碑

昭和 53 年 (1978) 建立 三重県立亀山高等学校

校門左脇に立つ石碑は鈴鹿高女記念碑で、鈴鹿高女の校歌をもとに作成された碑文が刻まれています。校門 [No.2-27] と同時に丘友会による募金で建立されました。書は鈴鹿高女の卒業生によるものです。

(3) 学科編成

亀山高等学校には、全日制と定時制が設けられていました。昭和時代の全日制には、名称変更などはあるものの、普通科、商業科、家庭科の3学科がありました。

新制高校として誕生した昭和23年(1948)には、普通科のみでした。しかし、新制高校発足には、①学区制、②男女共学制、③総合制の原則がありました。うち、総合制とは、普通科と職業科をあわせた総合制高校のことでした。普通科のみでは問題があることから、三重県内で再配置がなされました。

その結果、翌24年に、亀山実業学校にあった機械科・農業科部分は他校へ移り、商業科が残され、同時に女子の人数が多いことから家庭技芸科が誕生しました。これら3学科の系譜は、形を変えながら現在まで続いています。

① 普通科

普通科は、昭和23年の学校創立時から設けられています。授業や行事などは、5コーナーで紹介します。

② 商業科

商業科は、昭和24年(1949)に設置されました。設置当初、設備・備品ともに不足し、環境整備からスタートしました。大きな変化は、昭和29年(1954)に完成した理科商業棟です [No.2-12~15]。2階に、簿記室・タイプライター室・準備室・商業実践室の4つの商業教室が入りました。ここで、商業科の専門教育を行いました。

その後、校舎の改築により、第二棟(昭和48年(1973)・49年(1974))、第一棟(昭和51年(1976)・52年(1977))を建設、各棟内に時代に応じた特別教室を設け、専門教育を行いました。

商業科は、平成6年(1994)に情報オフィス科に、さらに平成16年(2004)にシステムメディア科へと変わっていきます。



商業実践教室



生物準備室



竣工式

2-29 理科・商業科特別教室アルバム

昭和29年(1954) 三重県立亀山高等学校

昭和29年1月23日、理科商業棟が竣工しました。1階に理科関係、2階に商業科関係の教室が入り、屋上に天体観測室があります [No.2-15]。

③ 家庭科

昭和24年(1949)、家庭技芸科を設置しました。昭和29年(1954)には、家庭科に保育科が加わり2科となりました。家庭科は、後に家政科と科名変更しますが、平成6年(1994)に2科をあわせて総合生活科となるまで存続しました。

ここでは、三重県で初めて設けられた保育科について紹介します。保育科の設置は、昭和29年のことでした。県内には、北勢は亀山高等学校、南勢は明野高等学校の2校のみであったため、全県から通うことができました。設置後、最大の問題は実習場所でした。資金・土地確保を進め、昭和31年(1956)、三重県立亀山高等学校附属実習施設「ふたば園」が誕生しました。その後、昭和56年(1981)3月に新たな園舎が完成し校内で移転します。しかし、平成15年(2003)3月末に閉園することとなりました。



2-30 亀山高校新聞 第34号3面 昭和31年(1956)5月15日発行 三重県立亀山高等学校
保育科設置を進めた前校長福岡法重へのインタビュー記事。社会福祉事業が盛んとなり、保育(現・保育士)の育成に意義があると考えていたこと、さらには、家庭科の女子は就職が難しい場合が多く、新たな女子の就職先確保を考えていたことを語りました。また、保育は、人間の一生の性格を決める時期を教える重要な仕事とも考えていました。そして、理論のみならず、技術を身につけさせるため実習室建設を進めたとも述べています。



2-31 亀山高校新聞 第34号1面

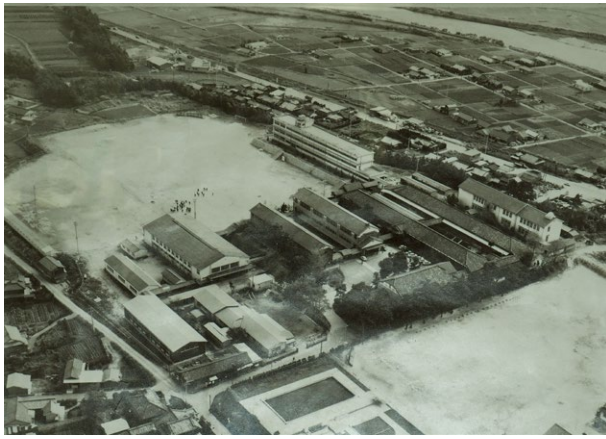


2-32 亀山高校新聞 第37号2面

2-31 亀山高校新聞 第34号1面 昭和31年(1956)5月15日発行 三重県立亀山高等学校

2-32 亀山高校新聞 第37号2面 昭和32年(1957)2月28日発行 三重県立亀山高等学校

昭和31年5月1日に4歳・5歳児を集め、「ふたば園」が開園しました。ふたば園は、保育所と幼稚園を兼ね備えた新しい施設でした。定員は、4歳・5歳児あわせて40名、保育料月300円、その他に教材費・入所料・給食費などが必要でした。また、保育科生徒の実習は、毎週金曜の2時間目に行うことになりました。



2-33 校舎航空写真（北西から）

昭和44年（1969）三重県立亀山高等学校

敷地西側、亀山東小学校との間の道に面した北側から2棟目の建物が、昭和31年（1956）に完成したふたば園です。



2-34 校舎航空写真（北から）

昭和60年（1985）三重県立亀山高等学校

敷地北側、学校北側の道路に面した東側の建物が、昭和56年（1981）に新しくなったふたば園です。



2-35 亀山高校新聞 第59号4面

昭和37年（1962）6月1日発行 三重県立亀山高等学校

保育科特集面です。保育科の指導目標や授業内容が紹介されています。卒業後の就職率が100%であると紹介され、福岡法重の思いが叶ったこともわかります[No.2-30]。また、同時に仕事の重要性や大変さに見合わない初任給の低さが嘆かれており、現在と同じ課題を持っていたこともうかがえます。

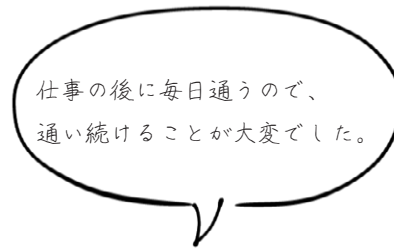
④ 定時制

亀山高等学校が誕生した昭和23年(1948)の夏、8月1日に定時制課程はスタートしました。翌24年度からは、昼間から夜間定時制へと変更になりました。修業年限は4年間、授業は4時間目まででした。定時制独自で生徒会組織の結成、授業後のクラブ活動、文化祭、体育祭や修学旅行など数々の学校行事も行いました。しかし、平成25年度末(平成26年(2014)3月)に閉課程となりました。



2-36 亀山高校新聞 第14号4面

昭和28年(1953)2月24日発行 三重県立亀山高等学校
昭和24年度に入学した夜間定時制第1回卒業生の座談会。皆、勉強と仕事の両立に苦勞したことを語っています。一方で、卒業まで学校を続けられたことで自信を得たことも語っています。学校へは、暖房と照明の設置を要望しています。始まったばかりの定時制の様子がかがえる内容です。



2-37 亀山高校新聞 第74号2面

昭和42年(1967)2月14日発行 三重県立亀山高等学校
定時制生徒会との座談会。授業、クラブ、行事などが話題です。教室では、冬はストーブをつけるも煙ばかりで暖かなく消してしまうこと、この年のクラブは、バスケット・野球・バドミントン・弁論があること、球技大会や1年生の歓迎旅行があることなどを話しています。



2-38 給食室での休憩



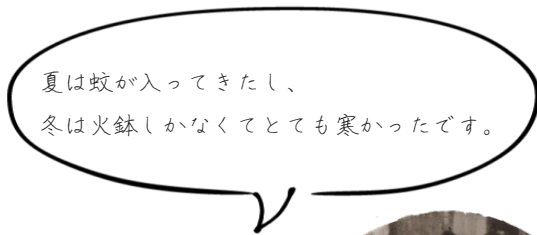
2-39 給食

2-38 給食室での休憩（卒業アルバム 1960） 昭和 35 年（1960） 高木家

2-39 給食（卒業アルバム 1973） 昭和 48 年（1973） 三重県立亀山高等学校

昭和 33 年（1958）、講堂の南に給食室が完成し、運用が始まりました。1 時間目と 2 時間目の間に給食の時間があり、パンと牛乳が提供されました。

昭和 47 年（1972）には、新たな給食室ができました。パン・マーガリン・牛乳の給食です [No.2-39]。



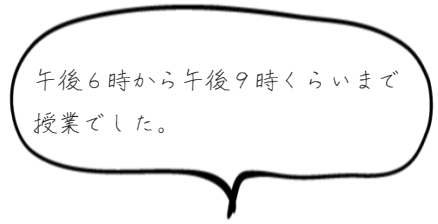
夏は蚊が入ってきたし、
冬は火鉢しかなくてとても寒かったです。



2-40 教室風景（授業・蚊対策・火鉢を囲んで）
（卒業アルバム 1960）

昭和 35 年（1960） 高木家

教室は、全日制の教室を共同使用しました。夜間ですので、夏は蚊、冬は寒さ対策が必要でした。当初は火鉢ひとつで、あまり暖かくはなかったそうです。昭和 41 年（1966）から、夏は網戸が入り、冬はストーブが設置されるようになりました。



午後 6 時から午後 9 時くらいまで
授業でした。



2-41 体育（卒業アルバム 1960）

昭和 35 年（1960） 高木家

昭和 27 年（1952）、グラウンドに照明が設置され、夜間も授業やクラブ活動ができるようになりました。昭和 42 年度（1967）以降、照明の改善が続き、全日制と同じ条件の体育や定時制独自の体育祭ができるまでになりました。写真では、まだまだ暗い授業のようすが伝わります。



2-42 修学旅行 長崎平和記念公園集合写真

2-42 修学旅行 長崎平和記念公園集合写真

2-43 修学旅行 別府のホテルにて

昭和 33 年 (1958) 個人

3 年生で行った修学旅行。行き先は長崎・別府・阿蘇でした。修学旅行は、3・4 年生合同でしたので、集合写真には両方の学年が写っています。



2-43 修学旅行 別府のホテルにて

年上のクラスメイトは、社会の先輩で、もうひとりの先生とっていました。



2-44 新入生歓迎旅行 (卒業アルバム 1960)

2-44 新入生歓迎旅行 (卒業アルバム 1960) 昭和 34 年 (1959) 高木家

2-45 新入生歓迎旅行 昭和 34 年 (1959) 個人

4 年生で行った新入生歓迎旅行です。行き先は奈良でした。



2-45 新入生歓迎旅行



2-46 定時制閉課程記念石碑

平成 26 年 (2014) 建立 三重県立亀山高等学校

亀山高校中庭に立っており、碑文は、校歌より「不滅の光」と刻んでいます。閉課程記念として、本石碑と卒業生が揮毫した校歌額が作られました。

3 クラブ活動と栄光の日々

亀山高等学校のクラブの始まりは、開校した昭和23年(1948)のことでした。まずは同好会が組織され、翌24年、クラブとなったとみられます。クラブ組織は幾度か改変されますが、基本的には、生徒会の下にあり、各年度予算からクラブ予算の配分を行いました。

クラブは、運動部と文化部に大別され、多くのクラブが活躍しました。運動部では、全国大会へ出場したクラブがいくつもありました。時代ごとに強豪クラブには変化がありますが、昭和時代においてのひとつの画期は、昭和50年(1975)開催のみえ国体ではないでしょうか。国体にあわせ7部が強化指定されました。男子はウエイトリフティング部、バドミントン部、女子はソフトボール部、体操部、山岳部、剣道部、バレーボール部です。県内の強豪校であったことがうかがえます。

文化部でも、弁論部、吹奏楽部、合唱部、新聞部、放送部などが、県下トップの成績を残しています。そのほか、日々の成果をまとめた機関誌として、文芸部は『断層』、郷土史クラブは『鈴鹿』を発行するなどの活動を行いました。このコーナーでは、いくつかのクラブの活動と成果を紹介します。

運動部

山岳部

山岳部は、クラブ創設時から活動しています。昭和30年代・40年代には、県代表として国体やインターハイ出場を成し遂げました。1年に1度、日本アルプスで夏山縦走を行い、力をつけました。



3-1 学校での活動



3-2 御在所岳での活動

3-1 学校での活動

3-2 御在所岳での活動

昭和34年(1959)～37年(1962) 打田晃家

学校でのひとこま。学校裏の松林での懸垂下降の練習風景です [No.3-1]。山岳部のホームグラウンドは御在所岳でした。週末にはテント泊で登りました。学校備品のテントは、校名入りです [No.3-2]。

週末は土曜の午後から日曜まで鈴鹿山脉(野登から藤原あたり)に登りました。
夏休みには、1週間ほど夏山合宿に行きました。30～40kgくらいの荷物を背負いました。テントは綿、ザイルは麻で重かったことを思い出します。



3-3 夏山縦走登山計画



3-4 後立山連峰縦走(白馬岳)

3-3 夏山縦走登山計画

昭和34年(1959)～36年(1961) 打田晃家

3-4 後立山連峰縦走(白馬岳)

昭和34年(1959) 打田晃家

山岳部の夏山縦走の計画です。昭和34年は後立山連峰、昭和35年は笠・槍・穂高縦走、昭和36年は劔・立山・薬師・三俣蓮華の北アルプスの山々を縦走しました。山の難易度評価では、高難易度に分類されるものもあり、高度な登山をしていました [No.3-3]。

ザックは、体よりも幅の広いものを背負っていました [No.3-4]。



3-5 第4回全国高等学校登山大会パンフレット



3-6 第4回全国高等学校登山大会テント場

3-5 第4回全国高等学校登山大会パンフレット

3-6 第4回全国高等学校登山大会テント場

昭和35年(1960) 打田晃家

昭和35年、岡山県蒜山^{ひるぜん}で行われた全国高校登山大会に三重県代表のメンバーとして3名が出場しました。

女子バスケットボール部

バスケットボール部は、クラブ創設時から活動しています。最初は、男子のみのクラブでした。男子バスケット部も、草創期から県大会で優勝するなど、運動部を代表するクラブです。女子バスケット部は、昭和29年(1954)、同好会として誕生しました。

特に、昭和40年度(1965)は、県大会で優勝し、インターハイ・国体・東海高校総体への出場を果たしました。なお、昭和40年のインターハイは、亀山高校から、女子バレー・女子バスケット・女子バドミントン・テニス・山岳の5種目で参加しており、多くの運動部が活躍した時期でした。バスケット部は、男女ともに現在まで続いています。



3-7 亀山高校新聞 号外

昭和40年(1965)10月23日発行 三重県立亀山高等学校
昭和40年、亀山高校女子バスケット部初の国体出場を決めました。岐阜国体出場記念に発行された号外です。号外発行の費用は、広告掲載の地元企業からの援助によるものです。

剣道部

剣道部は、昭和38年（1963）にサークルとして誕生し、昭和40年度（1965）にクラブに昇格しました。当初は、体育館で活動していましたが、第二体育館ができると活動場所を移しました。男女ともに有段者も多く、全国大会へ出場しています。剣道部も現在まで続くクラブです。



3-8 亀山高校新聞 第62号3面

昭和38年（1963）7月6日発行 三重県立亀山高等学校

剣道部がサークルとして誕生した昭和38年の記事です。女子部員の入部とともに、体育館での早朝練習風景などを紹介しています。



3-10 第9回・第10回三重県高等学校

秋季剣道選手権大会女子団体優勝トロフィー

昭和50年（1975）・51年（1976）三重県立亀山高等学校
県大会において、2年連続、女子団体優勝を果たしました。その結果、両年とも、高校総体、インターハイへ出場しました。



3-9 第二体育館（亀山高校新聞 第74号1面）

昭和42年（1967）2月14日発行 三重県立亀山高等学校

昭和42年1月、第二体育館が完成しました。内部は、畳敷きの柔道場と板張りの剣道場になっていました。剣道場ができたことで、より練習しやすくなりました。

女子バレー部が有名でした。
とても強かったです。（昭和30年代後半）

運動部は全国クラスのクラブが多かったです。
ソフト部、バドミントン部、体操部、バレー部
などが強かったです。（昭和40・50年代）

ウェイトリフティング部

昭和48年(1973)のインターハイ、昭和50年(1975)のみえ国体を目指し、昭和45年(1970)に創部しました。昭和47年(1972)には、第一体育館北に練習場を設置しました。この練習場は、全国初の大きな専用練習場でした。その後、校舎改築にあわせ、昭和56年(1981)、練習場とトレーニング場が、現在と同じ敷地の南端に移転しました。

創部当初から全国大会出場を果たすなど、好成績を収め続け、現在も、亀山高校を代表するクラブとして続いています。



創部当初は専用練習場がなく、
体育館の軒下に枕木を置いて練習しました。

3-11 第4回県高校重量挙新人大会 優勝楯

昭和47年(1972) 三重県立亀山高等学校

県新人大会で団体優勝しました。創部翌年の昭和46年(1971)から48年(1973)まで3年連続優勝しました。



3-12 広報かめやま 8月上旬号2面

3-12 広報かめやま 8月上旬号2面 昭和48年(1973)8月13日発行 亀山市歴史博物館

3-13 昭和48年度全国高等学校総合体育大会ウェイトリフティング競技選手権大会第3位トロフィー

昭和48年(1973) 三重県立亀山高等学校

昭和48年8月、三重県でインターハイが開催されました。ウェイトリフティング競技の会場は、亀山高校体育館を使いました。亀山高校からは6名が出演し、団体3位となり、歴代初の会場校団体3位以内入賞を果たしました。



3-13 昭和48年度インターハイ
第3位トロフィー



- 3-14 完成した亀山市体育館 (広報かめやま 9月上旬号)
- 3-14 完成した亀山市体育館 (広報かめやま 9月上旬号)
- 3-15 広報かめやま 11月上旬号2面

昭和50年(1975)9月1日、11月5日発行

亀山市歴史博物館

昭和50年開催のみえ国体では、亀山市はウエトリフティングの会場となりました。競技は、高校生が競う少年の部が亀山中学校体育館、成年の部が同年完成の亀山市体育館(現・西野公園体育館)で行われました。亀山高校からは現役生1人、卒業生1人、教員1人が出場し、少年男子で三重県優勝、さらに成年男子とあわせ三重県が総合優勝を果たしました。どちらも三重県初の成績です。



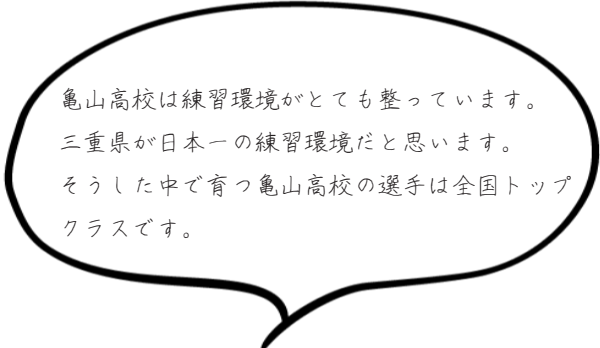
3-15 広報かめやま 11月上旬号2面



- 3-16 昭和57年度全国高等学校総合体育大会
ウエトリフティング競技選手権大会
第2位 賞状・楯・メダル

昭和57年(1982) 三重県立亀山高等学校

鹿児島県で行われたインターハイにおいて、初めて団体2位入賞を果たしました。



コラム モントリオールオリンピック

亀山高校にはオリンピック銅メダリストの先生がいました。平井一正先生です。平井先生は、保健体育を教えるとともにウエイトリフティング部でも顧問を務めました。

昭和51年（1976）、カナダで開かれたモントリオールオリンピックで、ウエイトリフティングフェザー級3位の成績を収めました。



3-17 平井一正先生着用ユニホーム

昭和51年（1976）三重県立亀山高等学校

モントリオールオリンピック日本選手団のユニホームです。先生のネームが刺繍されています。



3-18 平井一正先生凱旋（卒業アルバム 1977）

昭和51年（1976）三重県立亀山高等学校

モントリオールから戻り、亀山駅前で市民に迎えられました。

担当の授業以外の時間を自分の練習時間にあてました。クラブと一緒に練習しましたが、その時はあまり重くない練習をしました。

モントリオールから帰国すると予期せず亀山から成田空港まで迎えがあり、東京に1泊することになりました。翌日指定された電車で帰郷することになり、四日市駅あたりでユニフォームに着替えてくれと言われ、不思議に思っていました。亀山駅に到着すると、多くの人が出迎えてくれ、花火もあがり、とても驚きました。その後、今井市長と市内パレードをしました。

私にとっての亀山高校は、まさに青春でした。

～開校当初のクラブ～ 演 劇 部

演劇部は、クラブ創設時から活動しています。文化祭・学園祭で発表するほか、県内コンクールなどに出場しました。



3-19 アリババ物語キャスト



3-21 アルルの女キャスト



3-20 アリババ物語上演風景

3-19 アリババ物語キャスト

3-20 アリババ物語上演風景 (卒業アルバム 1951)

3-21 アルルの女キャスト

衣装は手作りしました。
講堂で準備作業をしている時には、
部員の親が差し入れをしてくれました。

昭和 25 年 (1950) 谷川家

昭和 25 年 12 月の第 3 回文化祭では、アリババ物語を上演しました。同年 9 月にはアルルの女を上演しました。

弁論部

弁論部は、クラブ創設時から活動しています。鈴鹿高等女学校にも弁論部があり、その系譜も引いているのではないのでしょうか。開校当初から、学校行事の折々に弁論大会「亀高杯弁論大会」「亀高式討論会」などを開催し、亀山高等学校と弁論・討論は切り離せないものでした。弁論部も創設当初から大会で優秀な成績を収め、「弁論の亀山高校」「討論会の亀高」と言われていました。しかし、時代の流れとともに、昭和43年度（1968）、クラブも終わりを迎えました。



3-22 三重県高等学校朝日式討論会 優勝楯

昭和時代 三重県立亀山高等学校

3-23 第一回県下高等学校弁論大会 優勝カップ

昭和35年（1960） 三重県立亀山高等学校

朝日新聞社後援の県下の高校による朝日式討論会の優勝楯 [No.3-22]。朝日式討論会とは、ディベート競技のことです。昭和27年（1952）の第1回大会、第3回～6回の4連勝、第8回優勝とまさに弁論の亀高の礎を象徴するものです。

優勝カップは、四日市高校主催高校弁論大会のものと思われます [No.3-23]。

新聞部

新聞部は、クラブ創設時から活動していたようです。学校新聞「亀山高校新聞」の編集を担当してきました。学校新聞が終わるとともに新聞部も終わりを迎えたとみられます。学校のようすを文字で伝える新聞部は終わりましたが、音声や映像で伝える放送部は、昭和26年（1951）には活動が確かめられ、現在までその活動が続いています。新聞は4コーナーをご覧ください。



3-24 学校新聞コンクール 佳作楯

昭和31年（1956）・34年（1959） 三重県立亀山高等学校

学校新聞コンクールで佳作を受賞した際の楯です。

吹奏楽部

吹奏楽部も、クラブ創設時からのクラブとみられます。創部当初の名前は、器楽部だったようです。ひとつの画期は、昭和37年（1962）のことでした。昭和37年度予算で演奏に耐えうる楽器とするよう、修理費として部予算が大幅に増額されました。そして、吹奏楽部は、現在までその活動が続いています。



3-25 中部日本吹奏楽コンクール三重県大会 優勝楯

2年生のとき（昭和36年）、周辺の学校の状況を調べて、楽器についての嘆願書を学校に提出しました。卒業後もOBとして指導し、初めてコンクールに入賞しました。



3-26 亀山高校新聞 第76号1面

3-25 中部日本吹奏楽コンクール三重県大会 優勝楯
昭和41年（1966）・42年（1967） 三重県立亀山高等学校

3-26 亀山高校新聞 第76号1面
昭和43年（1968）2月10日発行 三重県立亀山高等学校
第9回・第10回と中部日本吹奏楽コンクール三重県大会に小編成の部で出場し、連続優勝を果たしました。



3-27 学園祭での演奏



3-28 野球の応援での演奏

3-27 学園祭での演奏 昭和37年（1962）個人

3-28 野球の応援での演奏

昭和35年（1960）～37年（1962）個人

昭和37年の第14回学園祭では、クラブ発表として演奏しました [No.3-27]。その他に体育祭や野球の応援でも演奏しました [No.3-28]。

郷土史クラブ

郷土史クラブは、クラブ創設時から活動しました。創部当初は、考古学の側面から地域に迫りました。次第に、民俗学の調査も行うようになり、校区を中心に地方史を研究しました。日々の研究成果をまとめ、地方史研究誌『鈴鹿』を通巻47号まで発行しています。

特に、亀山市に考古学を専門とする文化財保護行政の担当者が不在の時代に行われた発掘調査では、クラブの生徒たちが活躍しました。昭和39年(1964)、名阪国道建設にあたって行った^{たいこうじ}太岡寺古墳群・木下古墳の発掘調査は、代表する活動のひとつです。



3-29 鉄刀 (太岡寺古墳群)

3-29 鉄刀 (太岡寺古墳群)

古墳時代(5世紀末~7世紀初め) 亀山市歴史博物館



3-30 土師器高坏 (太岡寺古墳群2号墳)

古墳時代(5世紀末~7世紀初め) 亀山市歴史博物館

太岡寺古墳群から出土したと伝えられる鉄刀2点と土師器高坏の一部です。^{はじきたつき}

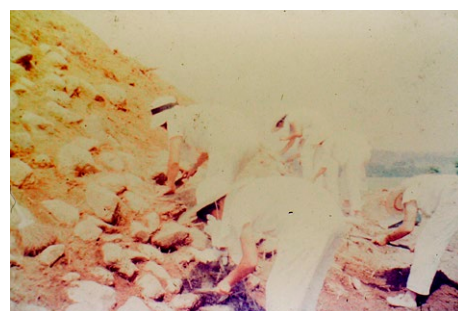
3-30 土師器高坏 (太岡寺古墳群2号墳)



3-31-1・2 太岡寺古墳群発掘調査風景



3-32-1・2 木下古墳発掘調査風景



3-31-1・2 太岡寺古墳群発掘調査風景

3-32-1・2 木下古墳発掘調査風景

昭和39年(1964) 亀山市(まちなみ文化財グループ所管)

昭和39年7月・8月の夏休み期間中に、太岡寺古墳群と木下古墳の発掘調査を行いました。太岡寺古墳群は鈴鹿市文化財調査委員と三重県立博物館学芸員が担当、木下古墳は三重大学の指導の下、いずれの古墳の調査にも部員が参加しています。



3-33 地方史研究誌 鈴鹿

『鈴鹿』は、昭和25年(1950)の創刊号から、昭和58年(1983)の第47号まで刊行されました。歴史学、民俗学、地理学、考古学、さらには総合調査も行い誌上に報告しています。クラブの成果は、現在の研究水準からみても、地域に密着した資料収集を行った研究として高く評価されます。

詳しくは web 図録をご覧ください。

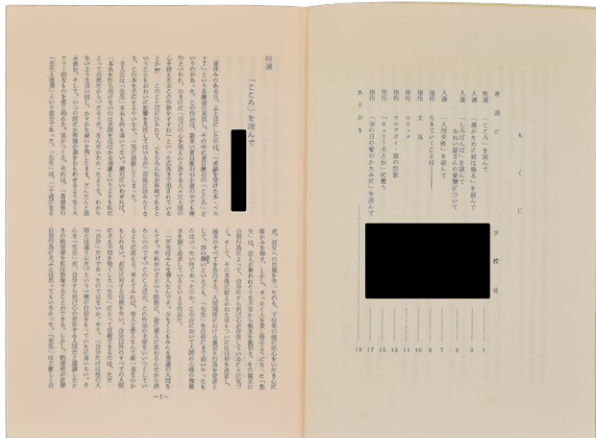
第30回企画展「学生がひもといた亀山—亀山高校郷土史クラブ—」

<http://kameyamarekihaku.jp/30kikaku/zuroku/title.html>



図書部

図書部は、クラブ創設時から活動し、主に読書の推進を担っていました。その活動のひとつが、読書感想文コンクールです。全校生徒から感想文を募り、優秀作品を校内表彰するとともに、『読書感想文集』としてまとめ、全校生徒に配布しました。



3-34 読書感想文集 1976

昭和51年(1976) 宮崎家

学校長の巻頭言によると、昭和51年の応募は約70点でした。その中から選ばれた特選は、「『こころ』を読んで」でした。



3-35 亀山高校新聞 第42号4面

昭和33年(1958)2月28日発行 三重県立亀山高等学校

昭和32年度の読後感想文コンクールでは、26点の応募がありました。入賞は昭和51年[No.3-34]と同じく夏目漱石の『こころ』の感想文です。

天文部

天文部は、昭和53年(1978)にサークルとして生まれ、55年(1980)にクラブに昇格しました。サークル時代から、日々の太陽黒点観測、気象観測を続け、夜間の観測会も行っていました。天文サークル発足以前には、物理・化学・地学の各部がひとつになった科学部があり、天体観測などを行っていました。

天体観測に使う天体望遠鏡は、学校自慢の設備でした。昭和29年(1954)に完成した旧第五校舎(理科商業棟)の屋上には、天体望遠鏡を備えた天体観測室が設置されました。これは、当時全国で2番目のものでした。校舎改築により新校舎となる際にも、天体観測室が設けられました。昭和49年(1974)に完成した現在の第二棟の屋上に設置されているドームが、天体観測室です。

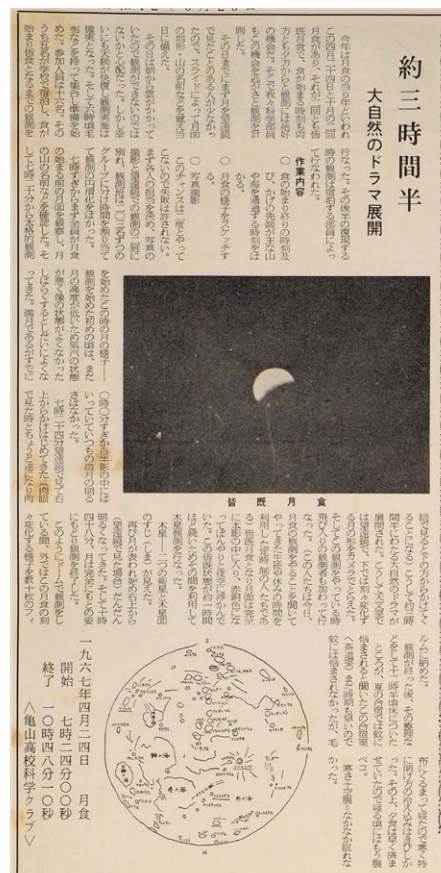
ラジオ短波で天気図を書きました。
星の写真は、自分たちで撮影して現像しました。



3-36 天文サークル・天文部観測記録

昭和54年(1979)～57年(1982) 石垣忠家

天文サークル・天文部では、太陽黒点観測と気象観測を継続して記録していました。



3-37 亀山高校新聞 第75号4面

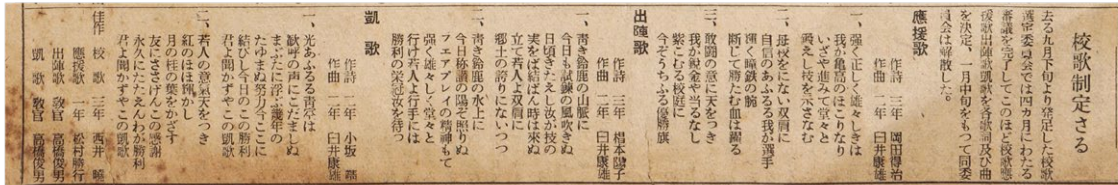
昭和42年(1967)6月26日発行 三重県立亀山高等学校
科学部が行った昭和42年4月24日の皆既月食の記録です。旧第五校舎(理科商業棟)の屋上の天体観測室で観測したものです。以前にも昭和30年(1955)の皆既日食、33年(1958)の金環日食を観測しています。

4 亀山高校新聞から見た亀高生

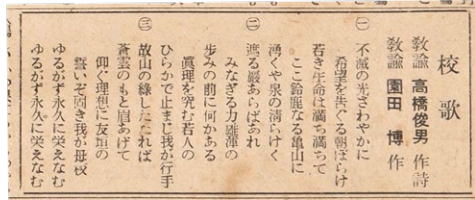
学校新聞「亀山高校新聞」は、学校創立の昭和 23 年度末に創刊されました。発行は生徒会から新聞部へと変わっていきませんが、編集は当初から変わらず新聞部が担っています。

学校内の状況はもちろん、校外へも取材へでかけ、生徒の目からみた各号発行時の亀山高校、亀山高校生の姿を浮かび上がらせています。年によって増減はありますが、年間 4 号ほど発行しています。こうした活動も次第に低調となり、昭和時代終わりごろに発行されなくなり終焉を迎えます。

また、記事以外に広告欄にも注目ください。地元企業の名前が並び、まさに地域からの支援で成り立っていたことがわかります。



4-1-1 亀山高校新聞 第3号4面



4-1-2 校歌 (亀山高校新聞 第3号1面)

4-1-1 亀山高校新聞 第3号4面

4-1-2 校歌 (亀山高校新聞 第3号1面)

昭和25年(1950)2月17日発行 三重県立亀山高等学校
 昭和25年、校歌選定委員会の審議によって、校歌、応援歌、出陣歌、凱歌の詞と曲が決まりました。生徒・職員に募集し、選定したものです。校歌は、作詞が高橋俊男(保健体育教諭)、作曲が園田博(音楽助教諭)です。他の3歌は、作詞・作曲ともに生徒によるものです。

校内世論調査の結果まとまる 生徒の実態をさぐる

読書 映画鑑賞の集中 十時間が最高

映画鑑賞の内容

この調査は、本校の生徒に対する世論調査の結果をまとめたものである。読書、映画鑑賞、運動、娯楽などの項目について、生徒の関心と参加状況を明らかにしている。特に映画鑑賞は、毎週10時間以上鑑賞する生徒が最も多いことが分かった。

4-2 亀山高校新聞 第25号2面

昭和29年(1954)11月15日発行 三重県立亀山高等学校
 各学年各科から選んだ計10クラスの生徒の生活実態アンケート結果。毎月購買部で買うパンの量が、計算上全校の6割に達しているという結果は、校内での食事情がわかり注目されます。趣味や娯楽では、新聞は90%以上が毎日読み、外国文学が人気、雑誌は「平凡」が人気、映画鑑賞は月に1回以上、当時の高校生活のようすがうかがえます。

亀山生とはかくなる人種

アンケートからさぐる

あの日この耳特集版

このアンケートの結果、本校の生徒は、学業に専念し、運動も積極的に行っていることが分かった。一方で、娯楽活動への関心も高く、特に映画鑑賞や読書に熱心であることが特徴的である。また、将来の進路についても、多くの生徒が大学進学を志していることが明らかになった。

4-3 亀山高校新聞 第31号1面

昭和30年(1955)10月22日発行 三重県立亀山高等学校
 地域からみた亀山高校生についてのアンケート結果。良い点は、態度、質素、素朴、自立的といったところで、悪い点は、勉強に対する意欲、高校生らしい若さの欠如、活力が乏しい、交通道徳心に欠けるといったことを指摘されています。



4-4 亀山高校新聞 第32号4面

昭和31年（1956）1月28日発行 三重県立亀山高等学校
 昭和30年度第二期生徒会は、新学期を迎えた31年1月、役員全員の辞表提出という戦略を打ち出しました。停滞する生徒会活動において、学校側も生徒側も協力しない状況を打破しようとしたものでした。のちに、生徒会十周年を振り返る特集の中で、生徒会顧問の秋月先生は、この時期を「危機去る」時代であったと評価しています（亀山高校新聞第44号）。



4-6 亀山高校新聞 第35号2面

昭和31年（1956）8月8日発行 三重県立亀山高等学校
 弁当問題のアンケートにより、生徒の校内生活を調べました。大半の生徒が昼食時間以外に弁当を食べた経験を持っています。新聞では、これを「弁当族」と名付けています。ついで、校外でのようすの聞き取り調査です。聞き取りした飲食店、警察署、映画館、図書館で良かったという感想が聞かれます。



4-5 亀山高校新聞 第33号2面

昭和31年（1956）2月28日発行
 三重県立亀山高等学校

3年生のホームルーム日誌を抜粋して紹介しています。昼食関係の書き込みが多くみられます。弁当を食べていた裏山が立入禁止となったこと、午前終了が1時間遅くなり12時30分となったことを嘆き、ついに3時間目終了直後に弁当を食べる生徒が登場します。

そして、この年の喜びは、学校創立以来初の国体出場。女子ソフトボール部の快挙をたたえています。



4-7 亀山高校新聞 第41号1面

昭和33年(1958)2月1日発行 三重県立亀山高等学校

昭和33年、中学区制導入が決まりました。高校創立時も学区制は問題となりました。昭和24年(1949)、学制改革の柱のひとつである小学区制が導入されました。小学区制は、高校1校ごとに学区を定め、学区内に住む生徒は当該高校へ通うというものです。亀山高校へは、鈴鹿郡と河芸郡の一部の生徒が通うことになりました。一方、中学区制は、学区を広くし、学区内にある学校のいずれかを選ぶというものです。三重県では、県下を三学区とし、亀山高校は中部学区に編入されました。

さまざまな問題をはらんでいることから、本号は「学区制問題特集号」となりました。アンケートの結果、中学区制に賛成したのは、生徒は問題意識が薄いというものの30%、父兄は25%という結果でした。また、同窓会、PTA、教職員組合は反対声明を出しました。賛成・反対、両者の意見が掲載されています。



4-8 亀山高校新聞 第43号3面

昭和33年(1958)5月22日発行 三重県立亀山高等学校

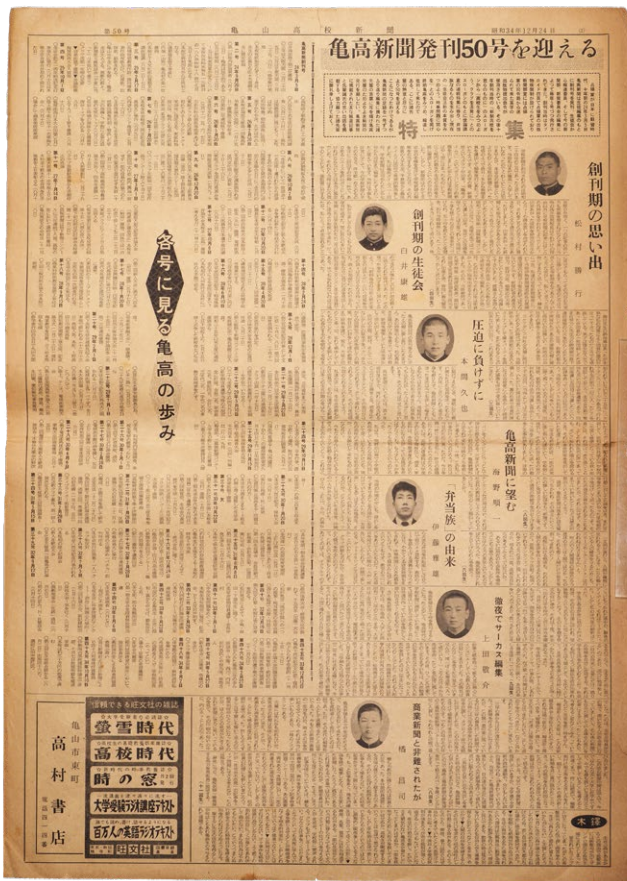
亀高生がどう見えるか、市民アンケートの結果です。総じて、落ち着いている、温和であるという評価を得ています。一方で、覇気がない、積極性に乏しいという評価もあります。先生は、臆病だと評します。学校では男女間で話しているところをみかけないし、男女交際しているようにもみえない、しかし実はつき合っている、これは他人を意識しすぎて臆病なのではないか、と述べています。



4-9 亀山高校新聞 第44号1面

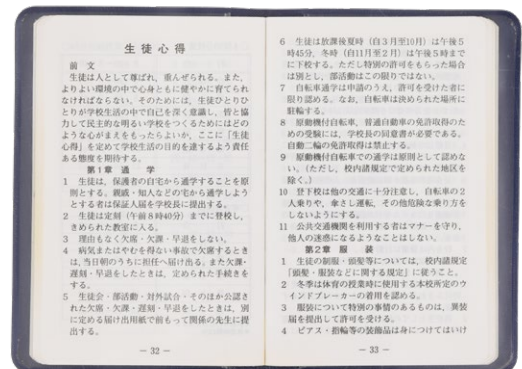
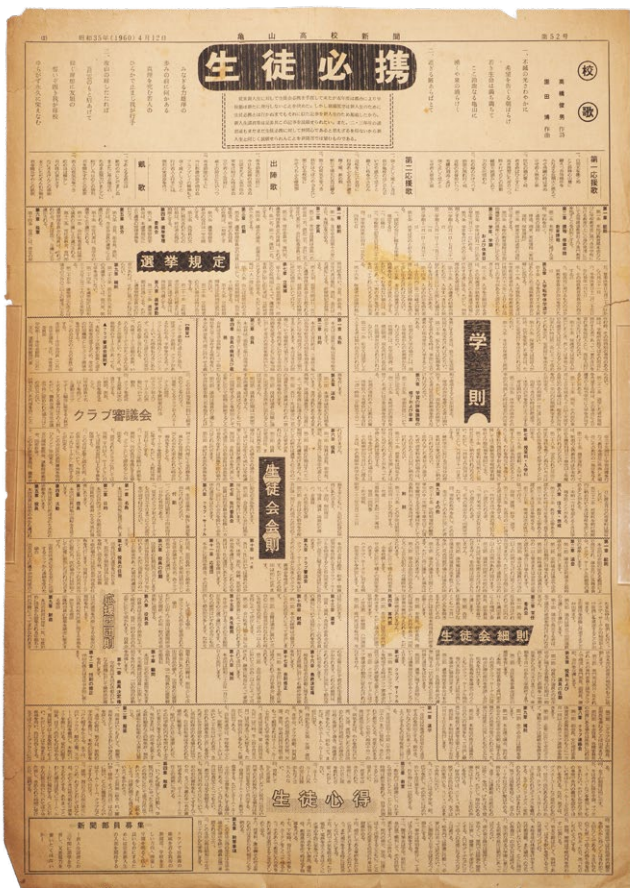
昭和33年(1958)8月6日発行 三重県立亀山高等学校

生徒会による全校生徒の希望調査結果です。学校への要望は、喫煙の取締が最多で、学校行事の増加や暴力の取締、図書室の拡張、照明の完備。ホームルームへの要望は、討論の場の設置、グループ研究の実施。要望が多岐にわたっていることがうかがえます。



4-10 亀山高校新聞 第50号2面

昭和34年(1959)12月24日発行 三重県立亀山高等学校
 亀高新聞発刊50号特集面です。創刊号の発行が昭和24年(1949)3月ですので、11年間で50号発行しました。過去の編集者たちは、伊勢新聞社社員から新聞編集のいろはを習ったこと、夜を徹して編集して入稿したことなどの思い出を語っています。また、各号の概要をみると、当時、学校で何が行われていたかよくわかります。

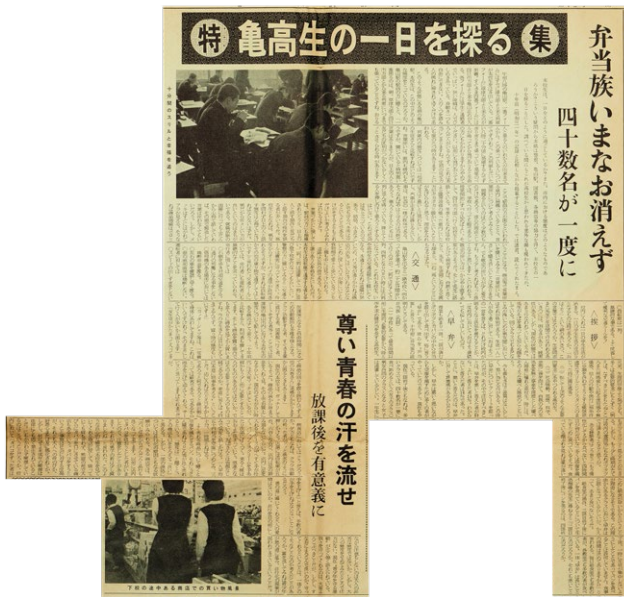


4-12 生徒手帳 平成26年(2014)小林家

現在の生徒手帳にも、「生徒必携」[No.4-11]にある学則・生徒心得・生徒会会則・生徒会細則・選挙規定が掲載されています。

4-11 亀山高校新聞 第52号2面

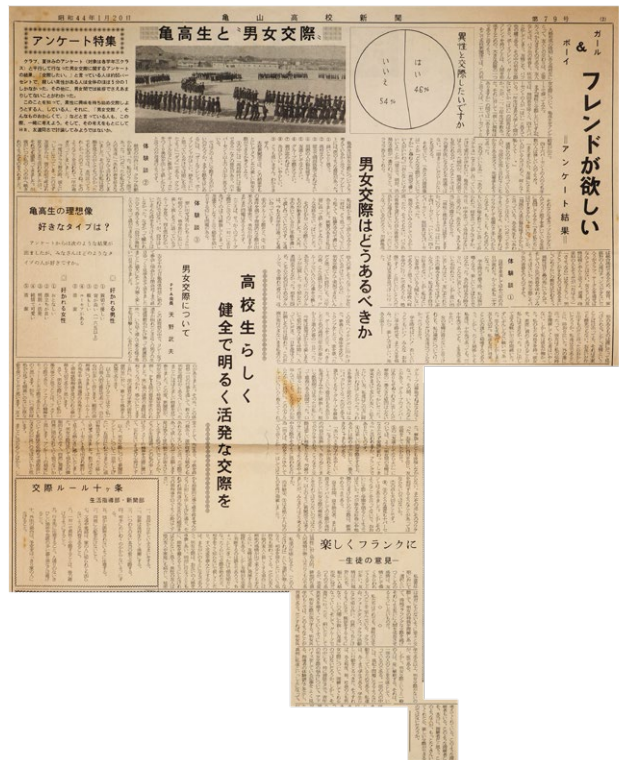
昭和35年(1960)4月12日発行 三重県立亀山高等学校
 学則・生徒会会則・生徒会細則・選挙規定・クラブ審議会・応援団団則・生徒心得からなる生徒が守るべき規則である「生徒必携」です。昭和35年度、新入生に手渡さないことが決まったことから、新聞で知らせることとなりました。



4-16 亀山高校新聞 第72号4面

昭和41年(1966)6月10日発行 亀山市歴史博物館

亀高生の一を追った特集記事。駅や通学路では、ルール無視が目立ちます。特に、道を何列にもなって通学する様子が注意されています。そして、早弁です。以前も「弁当族」の記事がありましたが[No.4-6]、続いています。3時間目終了後に、多いクラスでは、40数名が食べているといいます。そして放課後。商店では吟味して購入していること、飲食店での態度が良くなってきていることなどが報告されています。



4-17 亀山高校新聞 第79号2面

昭和44年(1969)1月20日発行 三重県立亀山高等学校

再び男女交際に関するアンケートです。生徒の関心が高いテーマだとみられます。

今回のアンケートでは、生活指導部と新聞部、つまり学校側と生徒側から、「交際ルール十ヶ条」が提案されています。高校生らしい健全な交際、一対一の異性との交際は避ける、といったことを提案しています。



4-18 亀山高校新聞 第82号1面

昭和44年(1969)12月23日発行 三重県立亀山高等学校

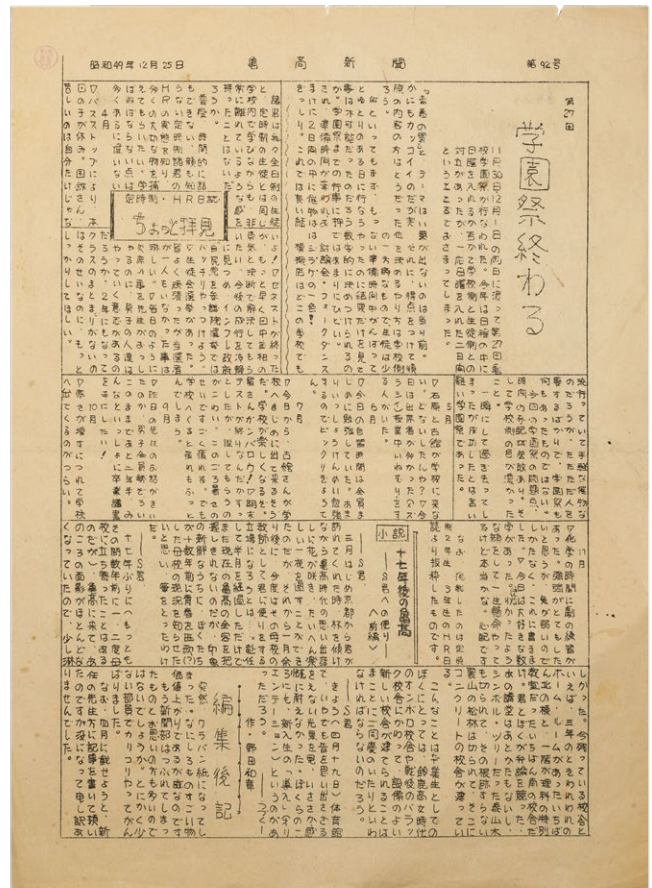
男子生徒の頭髪は、約10年にわたり是正を求めてきた問題です。頭髪自由化におけ、生徒会が調査したところ、男子の85%が自由化を望み、市民も父兄も批判がないという結果となり、学校側と交渉を行いました。そして、はれて昭和44年10月15日、校長先生から頭髪自由許可が発表されました。



4-19 亀山高校新聞 第87号2面

昭和46年(1971)8月9日発行 三重県立亀山高等学校

みたび、男女交際についての特集です。高校生にとっての永遠のテーマともいえるのではないのでしょうか。これまで、グループ交際が前面に出ていましたが、一対一の交際が増えてきていることも時代の流れかもしれません。



4-20 亀山高校新聞 第92号2面

昭和49年(1974)12月25日発行 三重県立亀山高等学校

定時制ホームルーム日誌からの抜粋記事です。欠席者がいることを気かけたり、このまま全員で卒業しようという言葉をかけたりしており、続けて通学し卒業することを目標に団結していました。劇の練習より勉強したい、大好きな数学、といった言葉からは、学校での勉強に対する意識がみえてきます。

また、本号は、手書き印刷で発行しています。物価上昇により、印刷費が足りなかったようです。それでも発行を続けようという意気込みが伝わってきます。

5 写真でふりかえる学校生活

学校では、日々の授業のほか、学園祭、体育祭、修学旅行などの学校行事が行われています。こうした学校生活は、その一場面が写真で切り取られ、今に残されています。鈴鹿高等女学校と亀山実業学校、そして亀山高等学校、時代を反映したそれぞれの学校生活を写真でふりかえます。

(1) 授業風景

鈴鹿高女



5-1 国語授業（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1932）
昭和7年（1932） 亀山市歴史博物館
「増鏡」の授業です。1クラス約50人ですので、教室にぎっしり座っています。



5-2 裁縫授業（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1932）
昭和7年（1932） 亀山市歴史博物館
鈴鹿高女の裁縫室での授業です。



5-3 家事实習（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1934）
昭和9年（1934） 亀山市歴史博物館
3・4年生で履修しました。栗饅頭と焼皮（桜餅）を作っています。制服の上には、割烹着かっぽうぎを着ています。女子師範との校舎共用期にあたることから、女子師範の家事室での授業とみられます。



5-4 日誌
昭和13年（1938）・14年（1939） 木崎嘉秋家
4年生の生徒が書いた日誌です。日々の記録の中には、家事实習のことも登場します。作った料理は、多岐にわたっています。

- 11月9日 正月料理
(梅花卵・寒天・きんとん・蓮根など)
- 1月25日 サンドイッチ
(ハム・卵・ジャム・キャベツ)・紅茶
- 2月22日 精進料理
(ごま豆腐・白和え・うどの信太巻・高野豆腐・汁など)
- 3月8日 田楽・みかんの寒天・そば饅頭



5-5 理科授業（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2595）
昭和 10 年（1935） 亀山市歴史博物館
滑車について学んでいます。女子師範の理科室での授業とみられます。



5-6 南学校農場

5-6 南学校農場（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1932）

5-7 南学校農場（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2595）



5-7 南学校農場

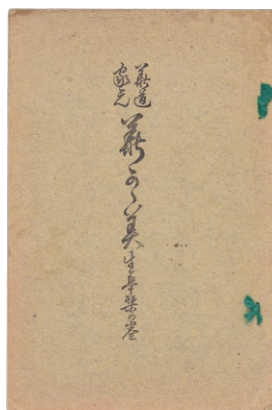
昭和 7 年（1932） 亀山市歴史博物館

昭和 10 年（1935） 亀山市歴史博物館

昭和 4 年（1929）に高等女学校の教科として農業科が登場しました。それにあわせ、鈴鹿高女でも正門の北と運動場の南の丘陵地に畑を設けて実習場としました。



5-8 華道



5-9 華可々美 生華栞の巻

5-8 華道（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2595） 昭和 10 年（1935） 亀山市歴史博物館

5-9 華道家元 華可々美 生華栞の巻 明治 37 年（1904） 木崎嘉秋家

3・4 年生は、週に 1 度課外として華道と茶道を学びました。No.5-9 は昭和 12 年（1937）に 3 年生の生徒が使っていたものです。

亀山実業



学校で習ったそろばんは、
戦後、仕事で役立ちました。

5-10 珠算・地理授業 昭和時代 亀山市歴史博物館

上は珠算、下は地理の授業です。亀山実業は、珠算教育に力を入れていました [No.1-62]。地理の授業は、太平洋戦争の地域であるソロモン諸島をとりあげています。

亀山高校



5-11 国語授業 (卒業アルバム 1962)



5-12 国語授業 (卒業アルバム 1963)

5-11 国語授業 (卒業アルバム 1962) 昭和 37 年 (1962) 加藤家

5-12 国語授業 (卒業アルバム 1963) 昭和 38 年 (1963) 個人

普通科の授業風景です。1人1台の机と1脚の椅子を使っています。どちらも木製です。夏は窓をあけて授業を行っていました。



5-13 定時制授業風景 (卒業アルバム 1973)

昭和 48 年 (1973) 三重県立亀山高等学校

教室は、金属と木材の机と椅子になりました。教室や運動場の照明が整えられ、定時制の授業も、明るい中で行えるようになりました。



5-14 教科書

昭和 27 年 (1952) ~ 30 年 (1955) 発行 西川真智子家

昭和 28 年度~昭和 30 年度まで使っていた教科書です。

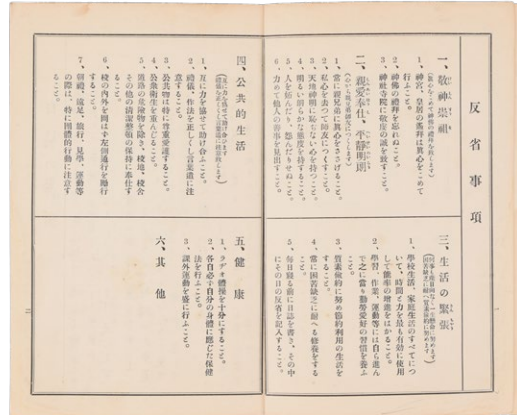
(2) 戦中の高女生・実業生

昭和12年(1937)からの日中戦争、そして昭和16年(1941)からの太平洋戦争と戦争が続きました。学校での教育内容も次第に戦時色が強くなっていきました。

鈴鹿高女



5-15 昭勅



5-16 反省録

5-15 昭勅

5-16 反省録 昭和11年度(1936) 木崎嘉秋家

訓育教育として、教育勅語などの関係昭勅を集めた冊子を携帯し、読むことになっていました。1年生の時に使っていたものです。同じく反省録も書くことになりました。敬神崇祖、親愛奉仕などの項目ごとに月々の反省点を記録し改善に努めるものです。



5-17 薙刀練習 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2599)

昭和14年(1939) 亀山市歴史博物館

昭和11年(1936)、文部省訓令によって体操科として、弓道と薙刀を行うことが可能になりました。そこで、翌12年、県下で初めて4年生の体育科目として採用しました。

写真の生徒達は、昭和14年1月に寒稽古を行いました。晒木綿と袴の稽古着に裸足で稽古し、女武士道の精神を体得したとの感想を記しています(校報第8号[No.5-20])。



5-18 勤労奉仕作業

(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2599)

昭和14年(1939) 亀山市歴史博物館

出征による人手不足解消のため、農繁期には、校外の勤労奉仕にでかけました。写真は、井田川村での勤労奉仕作業です。もんぺ姿で麦刈を手伝っています。



5-19 慰問品の菊花と短冊

(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2599)

昭和 14 年 (1939) 亀山市歴史博物館

傷病兵を病院へ見舞う慰問活動も行いました。写真には、慰問品として、生徒が育てた菊や和歌、図画、慰問袋が写っています。津陸軍病院などに慰問に行きました(校報第7号 [No.5-20])。



5-20 校報

昭和 13 年 (1938) ~ 16 年 (1941) 加藤尚大家

学校日誌や生徒の寄稿文から、戦時下の教育の様子が見えてきます。なお、女子師範との共用期ですので、両校連名の発行であり、内容も2校の活動が併記されています。

亀山実業



5-21 サツマイモ収穫作業 (亀田町)

昭和時代 亀山市歴史博物館

校地周辺に農場を持っていましたが [No.1-63]、次第に農場を広げました。昭和 15 年度 (1940) には、三重県茶業試験所 (現・亀山市亀田町) 西北を開墾し、そさいばたけ 蔬菜畑としました。写真はサツマイモの収穫作業です。

商業科でも、
開墾作業や農作業を行いました。

運動場の 2/3 は畑になって、
運動場は 1/3 になりました。
作ったサツマイモは、持って帰って食べました。



5-22 軍事訓練（亀山城南）

運動場で軍事訓練をしたことを思い出します。
体育は訓練でした。

軍から派遣された教官は馬に乗って通学していました。
会ったら敬礼していました。
校門の内側にあった竹藪を待避壕がわりにする、運動場
と亀山神社の社務所下の土手との間に濠をつくる、と
いったことをしていました。



5-23 銃剣術

5-22 軍事訓練（亀山城南）（三重県亀山町立亀山実業学校卒業アルバム 2598）

5-23 銃剣術 昭和時代 亀山市歴史博物館

学校に、陸軍現役将校が配置され、軍事教練を行いました。No.5-22 は三八式歩兵銃による訓練、No.5-23 は銃剣術の訓練です。白兵戦にも対応できるよう訓練内容が強化されていきます。

(3) 文化祭・学園祭・音楽会

鈴鹿高女



5-24 音楽会（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和4年）

5-24 音楽会（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和4年）

5-25 音楽会（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念2599）



5-25 音楽会（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念2599）

昭和3年（1928） 亀山市歴史博物館

昭和13年（1938） 亀山市歴史博物館

No.5-24 は昭和3年11月24日に開催されました。場所は、大正13年（1924）に完成した講堂です [No.1-19]。No.5-25 は昭和13年の音楽会です。場所は、女子師範との共用を記念して新築された講堂です [No.1-36]。鈴鹿高女の4年生は、「愛国行進曲」を歌っています。観客の前列には、女子師範附属小学校の児童が写っており、合同で行事を行っていたことがうかがえます。

亀山高校



5-26 亀高式討論会（学園祭）

昭和37年（1962） 伊藤真次家

昭和37年の第14回学園祭では、講堂で亀高式討論会を行いました。テーマは「高校生の男女交際は是か否か」です。4コーナーで紹介している亀山高校新聞でもたびたびテーマとなっており、亀高生にとって考えるべきものでした。



5-27 第二校舎内（学園祭）



5-28 家庭クラブ食堂

5-27 第二校舎内（学園祭）

昭和 37 年（1962）伊藤真次家

5-28 家庭クラブ食堂（卒業アルバム 1953）

昭和 27 年（1952）亀山市歴史博物館

5-29 生物クラブ大根展（卒業アルバム 1965）

昭和 39 年（1964）天野家

校内では、クラブ展示が行われました。



5-29 生物クラブ大根展



5-30 フォークダンス



5-31 フォークダンス

5-30 フォークダンス（卒業アルバム 1956）

昭和 30 年（1955）亀山市歴史博物館

5-31 フォークダンス 昭和 35 年（1960）加藤家

5-32 全校フォークダンス（卒業アルバム 1965）

昭和 39 年（1964）天野家

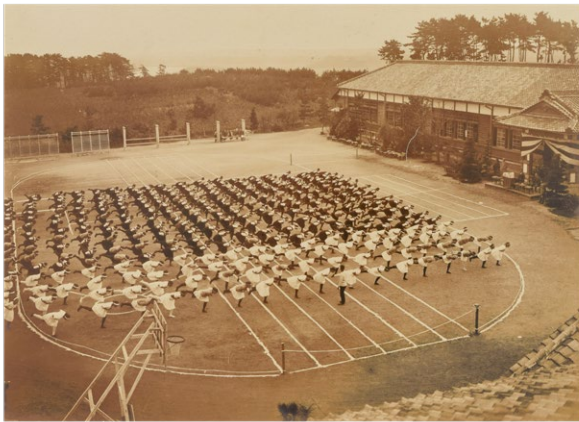
亀高名物といわれた全校フォークダンスは、昭和 30 年の文化祭で初登場しました [No.5-30]。その後、文化祭・体育祭では、全校フォークダンスを踊ることが定番となりました。



5-32 全校フォークダンス

(4) 運動会・体育祭・マラソン大会

鈴鹿高女



5-33 運動会 合同体操(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和4年)



5-34 運動会 合同体操(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1934)

5-33 運動会 合同体操(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和4年) 昭和3年(1928) 亀山市歴史博物館

5-34 運動会 合同体操(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1934) 昭和8年(1933) 亀山市歴史博物館

体操科には遊戯があり、唱歌遊戯や行進遊戯という、いわゆるダンスがありました。運動会でもこうしたダンスの発表が行われていました。通常の競技種目もあり、昭和3年(1928)には、綱引き、徒競走が行われています[No.1-30]。



5-35 長距離競走

(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念2600)

昭和14年(1939) 天野家

長距離競走は、毎年秋に行われていました。写真は、昭和14年11月24日に行われたもので、安楽橋(亀山市川崎町・太森町)と学校の間を走りました。当年は、2年生が21分7秒という学校新記録を更新しました(校報第12号[No.5-20])。

亀山実業



手榴弾投げの練習では、
決められた距離まで届かないと
何度もやり直しになりました。
体の小さな人は何度もやり直しさせられていました。

5-36 記録会 昭和時代 亀山市歴史博物館

昭和14年(1939)、厚生省は、体力増進を目的とする体力章検定を始めました。検定合格をめざしてしばしば記録会が行われました。上は手榴弾投げ、下は懸垂です。

亀山高校



5-37 体育祭(卒業アルバム1951)

昭和25年(1950) 谷川家

卒業アルバムで確かめられる最初の体育祭の様子です。競技とともに仮装行列も行われています。また、この年に誕生した応援団の応援演技が行われました。



5-38 仮装行列(第13回体育祭)

昭和36年(1961) 加藤家

体育祭で行った仮装行列です。写真の仮装は、世界の風俗をテーマにしたものです。



5-39 フォークダンス(卒業アルバム1962)

昭和36年(1961) 加藤家

フィナーレは、運動場での全校生徒によるフォークダンスでした。

フォークダンスは小学生の頃からしていました。
高校でも体育の時間に練習しました。

(5) 修学旅行

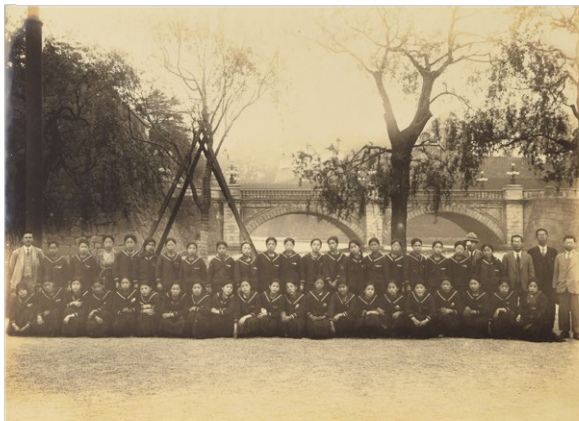
鈴鹿高女



5-40 関東旅行 明治神宮前集合写真



5-41 修学旅行 中禅寺湖畔集合写真



5-42 修学旅行 二重橋前集合写真



5-43 東京旅行 陸奥艦甲板集合写真

5-40 関東旅行 明治神宮前集合写真（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和4年） 昭和3年（1928） 亀山市歴史博物館

5-41 修学旅行 中禅寺湖畔集合写真（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1932） 昭和6年（1931） 亀山市歴史博物館

5-42 修学旅行 二重橋前集合写真（三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1934） 昭和8年（1933） 亀山市歴史博物館

5-43 東京旅行 陸奥艦甲板集合写真 昭和14年（1939） 天野家

4年生で関東方面へ出かけました。校報第15号には、昭和15年（1940）の旅行記の5・6日目が掲載されています [No.5-20]。5日目には前日に泊まった中禅寺湖から華厳滝を見学、電車で上野駅、そして新宿駅へ移動し、帰途へ着きます。車中泊のまま、6日目に名古屋駅に到着。名古屋では、熱田神宮・東山動物園を見学し、ついに亀山駅へと戻るという旅でした。

亀山実業



5-44 屋島談古嶺集合写真



5-45 栗林公園集合写真

5-44 屋島談古嶺集合写真（三重県亀山町立亀山実業学校卒業アルバム 2598）

5-45 栗林公園集合写真 昭和12年（1937）亀山市歴史博物館

昭和11年（1936）の修学旅行です。3年生が四国・大阪・京都方面へ向かいました。写真は、いずれも香川県内の名所です。

亀山高校

亀山高校の修学旅行は、最初は3年生で実施しましたが、昭和29年度（1954）卒業生から2年生で出かけています。昭和時代は主に九州方面へ旅行していました。

昭和23年度	大阪方面（3年生） 京都方面（2年生）	1泊2日
昭和24年～	関東方面（箱根・熱海・東京など）	3泊4日
昭和28年～	北九州方面	4泊5日
昭和42年～	南九州方面	4泊5日
昭和47年～	北九州方面	4泊5日
昭和54年	山口県・広島県	4泊5日



5-46 国会議事堂前集合写真

5-46 国会議事堂前集合写真

5-47 鶴岡八幡宮前集合写真

5-48 旅館太米館 昭和25年（1950）谷川家

3年生で関東方面へ行きました。東京で泊まった太米館は石川啄木が暮らした宿として有名です。



5-47 鶴岡八幡宮前集合写真



5-48 旅館太米館



5-49 亀山駅集合

5-49 亀山駅集合（卒業アルバム1955） 昭和29年（1954）亀山市歴史博物館

5-50 別府観光バス車内（卒業アルバム1956） 昭和30年（1955）亀山市歴史博物館



5-50 別府観光バス車内

2年生の年度末である3月に北九州方面へ行きました。亀山駅に集合し、列車で九州へ向かいました [No.5-49]。九州ではバス移動です。5列にぎっしり座っています [No.5-50]。



5-51 あげぼの丸甲板集合写真



5-52 東洋館

5-51 あげぼの丸甲板集合写真

5-52 東洋館 昭和 35 年（1960）加藤家

2 年生の秋に北九州方面へ行きました。No.5-51 は、1 日目に天保山から別府まで乗船したあげぼの丸の甲板です。No.5-52 は、3 日目夜の宿泊場所である長崎県雲仙市の東洋館です。

コラム 昭和 39 年東京オリンピック聖火リレー

昭和 39 年（1964）9 月 30 日、オリンピックの聖火が、現在の亀山市域をリレーされました。聖火リレー走者には、亀山高校の生徒も選ばれました。



左：5-53 オリンピック東京大会国内聖火リレー三重県コース実施要綱



中：5-54 第 8 区間走者集合写真（落針中継地点）



右：5-55 聖火リレー走者胸部マーク



5-56 亀山高校新聞 第 66 号 1 面

5-53 オリンピック東京大会国内聖火リレー三重県コース実施要綱

5-54 第 8 区間走者集合写真（落針中継地点）

5-55 聖火リレー走者胸部マーク 昭和 39 年（1964）亀山市歴史博物館

5-56 亀山高校新聞 第 66 号 1 面 昭和 39 年（1964）12 月 24 日発行 三重県立亀山高等学校

第 1 区間から第 13 区間が、現亀山市域のコースです。正走者・副走者・随走者に亀山高校生が選ばれています [No.5-53]。第 8 区間では、2 人の副走者が亀山高校生です [No.5-54]。

走者の服装は、上衣が男子白ランニングシャツ、女子半袖シャツ、胸に所定のマークをつけ [No.5-55]、下衣は白パンツ、白運動靴を履きました。新聞記事には、天神町あたりで亀山高校生全員が待ち受けたことや走者の感想を掲載しています [No.5-56]。

付 録

三重県立亀山高等学校の系譜

鈴鹿高等女学校の変遷

鐸鳴女学校 開校

明治 38 年 (1905) 4 月
 校 名 私立鐸鳴女学校
 場 所 亀山尋常小学校 (現・亀山西小学校) の 1 教室を利用
 修業年限 1 年



明治 39 年 (1906)
 場 所 亀山尋常高等小学校 (現・亀山西小学校) の 2 教室
 ・ 亀山城多門櫓を利用
 修業年限 2 年



鐸鳴女学校 新築移転

明治 42 年 (1909) 9 月
 場 所 亀山町大字東丸 (現・市役所駐車場)
 修業年限 2 年 (本科)・3 年 (裁縫科)・2 年 (補習科)



鈴鹿高等女学校 開校

大正 10 年 (1921) 4 月 13 日
 校 名 三重県鈴鹿高等女学校 【郡立】
 場 所 鐸鳴女学校・亀山城多門櫓
 修業年限 4 年 (本科)・実科 2 年
 定 員 本科 50 名・実科 25 名 (1 学年 1 学級)



大正 11 年 (1922) 4 月 1 日
 校 名 鈴鹿郡亀山町外十八ヶ町村学校組合立
 鈴鹿高等女学校 【組合立】



鈴鹿高等女学校移転
 新校舎落成式

大正 12 年 (1923) 3 月 18 日
 場 所 亀山町大字東町 (現・亀山高等学校)



大正 12 年 (1923) 4 月
 校 名 三重県立鈴鹿高等女学校 【県立】
 修業年限 4 年 (本科)
 定 員 100 名 (1 学年 2 学級)



鈴鹿高等女学校
 年限変更

昭和 21 年 (1946) 2 月
 修業年限 5 年

三重県女子師範学校との校地・校舎共用
 昭和 8 年 (1933) ~ 昭和 18 年 (1943)



鈴鹿高等女学校 終焉

昭和 23 年 (1948) 3 月

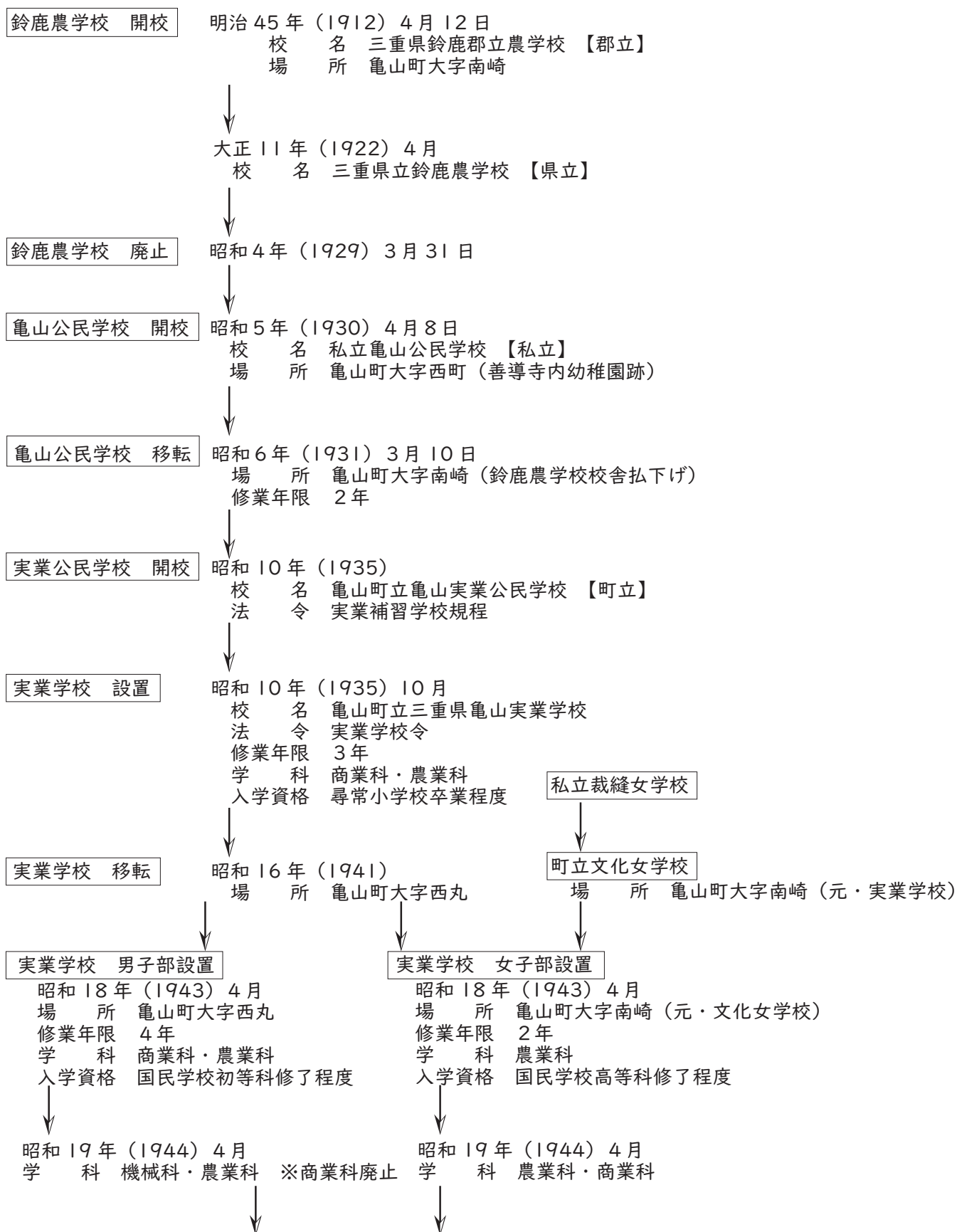


三重県亀山高等学校
 開 校

昭和 23 年 (1948) 5 月 23 日

	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
昭和 22 年 4 月	入学者なし	付設新制中学へ	付設新制中学へ	鈴鹿高等女学校	鈴鹿高等女学校
		↓	↓	↓	↓
		出身地の 新制中学へ	卒業 ・ 社会 ・ 亀山高校	学区内：亀山高校 学区外：出身地の 新制高校	学区内：亀山高校 学区外：出身地の 新制高校

亀山実業学校の変遷



掲載資料一覧

番号	資料名	時代	所蔵	番号	資料名	時代	所蔵
1. 亀山高校の系譜							
(1) 鐸鳴女学校							
1-1	私立鐸鳴女学校正門	明治 38 年 (1905) ~ 42 年 (1909)	加藤尚大家	1-42	記念運動会ラジオ体操 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2595)	昭和 9 年 (1934)	亀山市歴史博物館
1-2	作文「冬期休業中自己の見聞したる事項」	明治 41 年 (1908)	亀山市歴史博物館	1-43	子供教育展覧会 (三重県女子師範学校卒業記念写真帖 昭和 10 年)	昭和 9 年 (1934)	亀山市歴史博物館
1-3	私立鐸鳴女学校学則	明治 42 年 (1909)	亀山市歴史博物館	1-44	三重県女子師範学校・三重県立鈴鹿高等女学校正門 (三重県女子師範学校卒業記念写真帖 昭和 13 年)	昭和 13 年 (1938)	亀山市歴史博物館
1-4	私立鐸鳴女学校絵葉書	明治時代	加藤尚大家	1-45	校旗・校歌 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2599)	昭和 14 年 (1939)	亀山市歴史博物館
1-5	寄附申込書草稿	明治 42 年 (1909)	亀山市歴史博物館	1-46	辞令	昭和 17 年 (1942)	亀山市歴史博物館
1-6	承諾書草稿	明治 42 年 (1909)	亀山市歴史博物館	1-47	職員集合写真 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1934)	昭和 9 年 (1934)	亀山市歴史博物館
1-7	鐸鳴女学校土地買入費寄附	明治 42 年 (1909)	亀山市歴史博物館	1-48	受検票	昭和 11 年 (1936)	木崎嘉秋家
1-8	三重県女子師範学校入学試験問題集 付解答並入学志願者心得	明治 42 年 (1909)	加藤尚大家	1-49	身分証明書	昭和 15 年 (1940)	木崎嘉秋家
1-9	神崎修君凱旋記念	昭和時代	八木家	1-50	成績通知表	昭和 20 年 (1945) ~ 22 年 (1947)	山中美奈子家
1-10	改訂明治女学読本巻の五	明治 42 年 (1909)	亀山市歴史博物館	1-51	教科書	昭和 3 年 (1928) ~ 14 年 (1939) 発行	西川真智子家
1-11	私立鐸鳴女学校裁縫科教科用書・裁縫科・補習科裁縫教授細目	明治 42 年 (1909)	亀山市歴史博物館	1-52	新制中学校課程修了証書	昭和 23 年 (1948)	山中美奈子家
1-12	新編裁縫及作文帖	大正 5 年 (1916)	亀山市歴史博物館	(3) 亀山公民学校			
1-13	鐸鳴女学校生	大正時代	八木家	1-53	請願書	昭和 5 年 (1930)	亀山市歴史博物館
(2) 鈴鹿高等女学校							
1-14	三重県鈴鹿高等女学校全景絵葉書	大正時代	加藤尚大家	1-54	三重県私立亀山公民学校経過概要	昭和 11 年 (1936)	加藤尚大家
1-15	卒業記念集合写真	大正時代	亀山市歴史博物館	1-55	鈴鹿郡立農学校絵葉書	明治 45 年 (1912)	加藤尚大家
1-16	鬼瓦	大正時代	三重県立亀山高等学校	1-56	萬葉集正訓 卷一上・卷十一下	昭和 2 年 (1927)・11 年 (1936)	亀山市歴史博物館
1-17	落札通知書	大正 12 年 (1923)	亀山市歴史博物館	1-57	紙本着色子供遊戯図	近代	亀山市歴史博物館
1-18	指名入札通知書	大正 12 年 (1923)	亀山市歴史博物館	1-58	幼学綱要読本	昭和 8 年 (1933)	亀山市歴史博物館
1-19	校舎正面 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和 4 年)	昭和 4 年 (1929)	亀山市歴史博物館	(4) 亀山実業学校			
1-20	校友会誌 第 1 号 ~ 第 3 号	大正 12 年 (1923) ~ 14 年 (1925)	亀山市歴史博物館	1-59	校門・校舎 (三重県亀山町立亀山実業学校卒業アルバム 2598)	昭和 13 年 (1938)	亀山市歴史博物館
1-21	通知簿	大正 11 年 (1922) ~ 15 年 (1926)	亀山市歴史博物館	1-60	校舎	昭和時代	亀山市歴史博物館
1-22	生徒学業成績通知表	大正 11 年 (1922) ~ 15 年 (1926)	亀山市歴史博物館	1-61	集合写真 (三重県亀山町立亀山実業学校卒業アルバム 2598)	昭和 13 年 (1938)	亀山市歴史博物館
1-23	卒業生集合写真 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和 4 年)	昭和 4 年 (1929)	亀山市歴史博物館	1-62	珠算競技会 (三重県亀山町立亀山実業学校卒業アルバム 2598)	昭和 13 年 (1938)	亀山市歴史博物館
1-24	関東旅行集合写真 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1932)	昭和 7 年 (1932)	亀山市歴史博物館	1-63	農業実習 (三重県亀山町立亀山実業学校卒業アルバム 2598)	昭和 13 年 (1938)	亀山市歴史博物館
1-25	卒業生集合写真 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1934)	昭和 9 年 (1934)	亀山市歴史博物館	1-64	興亜礎石 故山脇文彦先生を偲ぶ	昭和 14 年 (1939)	亀山市歴史博物館
1-26	鈴鹿高等女学校卒業記念集合写真	昭和 23 年 (1948)	谷川家	1-65	山脇文庫	昭和時代	亀山市歴史博物館
1-27	鈴鹿高等女学校通学かばん	昭和時代	亀山市歴史博物館	1-66	亀山実業学校蔵書	昭和時代	亀山市歴史博物館
1-28	養老修学旅行集合写真 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2599)	昭和 10 年 (1935)	亀山市歴史博物館	1-67	風信器 創刊号	昭和 23 年 (1948)	亀山市歴史博物館
1-29	東京修学旅行集合写真	昭和 14 年 (1939)	天野家	2. 亀山高校の昭和時代 ~芽吹きから確立~			
1-30	運動会 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和 4 年)	昭和 3 年 (1928)	亀山市歴史博物館	(1) 制度整備			
1-31	伝鈴鹿高等女学校制服	昭和時代	亀山市歴史博物館	2-1	成績通知表	昭和 23 年 (1948)	山中美奈子家
1-32	校旗 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1932)	昭和 7 年 (1932)	亀山市歴史博物館	2-2	通知表	昭和 24 年 (1949)・25 年 (1950)	山中美奈子家
1-33	校歌 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1932)	昭和 7 年 (1932)	亀山市歴史博物館	2-3	通知簿	昭和 34 年度 (1959) ~ 36 年度 (1961)	加藤家
1-34	記念運動会 全校生徒合同体操 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1932)	昭和 6 年 (1931)	亀山市歴史博物館	2-4	卒業証書	昭和 26 年 (1951)	山中美奈子家
1-35	記念音楽会 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 1932)	昭和 6 年 (1931)	亀山市歴史博物館	2-5	卒業証書	昭和 37 年 (1962)	加藤家
1-36	講堂落成式 (三重県女子師範学校卒業記念写真帖 昭和 10 年)	昭和 9 年 (1934)	亀山市歴史博物館	2-6	亀山高等学校銘提灯	昭和時代	亀山市歴史博物館
1-37	記念絵葉書 (三重県女子師範学校・三重県立鈴鹿高等女学校)	昭和 9 年 (1934)	亀山市歴史博物館	2-7	昭和 24 年度卒業生 (卒業アルバム 1950)	昭和 25 年 (1950)	三重県立亀山高等学校
1-38	昭和八年亀山町勢一斑	昭和 9 年 (1934)	亀山市歴史博物館	(2) 校舎整備			
1-39	亀山名所	昭和 9 年 (1934)	亀山市歴史博物館	2-8	玄関つき木造二階建て校舎 (旧第二校舎) (卒業アルバム 1953)	昭和 28 年 (1953)	亀山市歴史博物館
1-40	記念音楽会 (三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念 2595)	昭和 9 年 (1934)	亀山市歴史博物館	2-9	木造二階建て校舎 (旧第一校舎)	昭和時代	伊藤真次家
1-41	記念音楽会 (三重県女子師範学校卒業記念写真帖 昭和 10 年)	昭和 9 年 (1934)	亀山市歴史博物館	2-10	学校防護表彰状	昭和 27 年 (1952)	三重県立亀山高等学校
				2-11	亀山高校新聞 第 11 号 1 面	昭和 27 年 (1952) 7 月 14 日発行	三重県立亀山高等学校
				2-12	三重県亀山高等学校理科商業教室増築計画要項	昭和 27 年 (1952)	亀山市歴史博物館
				2-13	校舎航空写真 (北から)	昭和時代	三重県立亀山高等学校
				2-14	理科商業棟 (卒業アルバム 1955)	昭和 30 年 (1955)	亀山市歴史博物館
				2-15	亀山高校新聞 第 20 号 1 面	昭和 29 年 (1954) 2 月 1 日発行	三重県立亀山高等学校
				2-16	建設中体育館	昭和 36 年 (1961)	伊藤真次家

番号	資料名	時代	所蔵
2-17	体育館	昭和 37 年(1962)	伊藤真次家
2-18	体育館兼講堂落成記念絵葉書	昭和 37 年(1962)	加藤家
2-19	体育館兼講堂落成記念手拭い	昭和 37 年(1962)	亀山市歴史博物館
2-20	亀山高校新聞 第 58 号 2 面	昭和 37 年(1962) 3 月 1 日発行	三重県立亀山高等学校
2-21	建設中第四棟	昭和時代	伊藤真次家
2-22	建設中第四棟	昭和時代	個人
2-23	第四棟(卒業アルバム 1965)	昭和 40 年(1965)	天野家
2-24	東京オリンピック記念校舎航空写真(北から)	昭和 39 年(1964)	天野家
2-25	登校風景(卒業アルバム 1963)	昭和 38 年(1963)	個人
2-26	校門(卒業アルバム 1965)	昭和 40 年(1965)	天野家
2-27	校門	昭和 53 年(1978) 建設	三重県立亀山高等学校
2-28	追憶之碑	昭和 53 年(1978)	三重県立亀山高等学校 建立
(3) 学科編成			
2-29	理科・商業科特別教室アルバム	昭和 29 年(1954)	三重県立亀山高等学校
2-30	亀山高校新聞 第 34 号 3 面	昭和 31 年(1956) 5 月 15 日発行	三重県立亀山高等学校
2-31	亀山高校新聞 第 34 号 1 面	昭和 31 年(1956) 5 月 15 日発行	三重県立亀山高等学校
2-32	亀山高校新聞 第 37 号 2 面	昭和 32 年(1957) 2 月 28 日発行	三重県立亀山高等学校
2-33	校舎航空写真(北西から)	昭和 44 年(1969)	三重県立亀山高等学校
2-34	校舎航空写真(北から)	昭和 60 年(1985)	三重県立亀山高等学校
2-35	亀山高校新聞 第 59 号 4 面	昭和 37 年(1962) 6 月 1 日発行	三重県立亀山高等学校
2-36	亀山高校新聞 第 14 号 4 面	昭和 28 年(1953) 2 月 24 日発行	三重県立亀山高等学校
2-37	亀山高校新聞 第 74 号 2 面	昭和 42 年(1967) 2 月 14 日発行	三重県立亀山高等学校
2-38	給食室での休憩(卒業アルバム 1960)	昭和 35 年(1960)	高木家
2-39	給食(卒業アルバム 1973)	昭和 48 年(1973)	三重県立亀山高等学校
2-40	教室風景(授業・蚊対策・火鉢を囲んで)(卒業アルバム 1960)	昭和 35 年(1960)	高木家
2-41	体育(卒業アルバム 1960)	昭和 35 年(1960)	高木家
2-42	修学旅行 長崎平和記念公園集合写真	昭和 33 年(1958)	個人
2-43	修学旅行 別府のホテルにて	昭和 33 年(1958)	個人
2-44	新入生歓迎旅行(卒業アルバム 1960)	昭和 34 年(1959)	高木家
2-45	新入生歓迎旅行	昭和 34 年(1959)	個人
2-46	定時制閉課程記念石碑	平成 26 年(2014)	三重県立亀山高等学校 建立
3. クラブ活動と栄光の日々			
運動部			
山岳部			
3-1	学校での活動	昭和 34 年(1959) ~ 37 年(1962)	打田晃家
3-2	御在所岳での活動	昭和 34 年(1959) ~ 37 年(1962)	打田晃家
3-3	夏山縦走登山計画	昭和 34 年(1959) ~ 36 年(1961)	打田晃家
3-4	後立山連峰縦走(白馬岳)	昭和 34 年(1959)	打田晃家
3-5	第 4 回全国高等学校登山大会パンフレット	昭和 35 年(1960)	打田晃家
3-6	第 4 回全国高等学校登山大会テント場	昭和 35 年(1960)	打田晃家
女子バスケットボール部			
3-7	亀山高校新聞 号外	昭和 40 年(1965) 10 月 23 日発行	三重県立亀山高等学校
剣道部			
3-8	亀山高校新聞 第 62 号 3 面	昭和 38 年(1963) 7 月 6 日発行	三重県立亀山高等学校
3-9	第二体育館(亀山高校新聞 第 74 号 1 面)	昭和 42 年(1967) 2 月 14 日発行	三重県立亀山高等学校
3-10	第 9 回・第 10 回三重県高等学校秋季剣道選手権大会女子団体優勝トロフィー	昭和 50 年(1975) ・ 51 年(1976)	三重県立亀山高等学校
ウエイトリフティング部			

番号	資料名	時代	所蔵
3-11	第 4 回県高校重量挙げ新人大会 優勝楯	昭和 47 年(1972)	三重県立亀山高等学校
3-12	広報かめやま 8 月上旬号 2 面	昭和 48 年(1973) 8 月 13 日発行	亀山市歴史博物館
3-13	昭和 48 年度全国高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技選手権大会 第 3 位トロフィー	昭和 48 年(1973)	三重県立亀山高等学校
3-14	完成した亀山市体育館(広報かめやま 9 月上旬号)	昭和 50 年(1975) 9 月 1 日発行	亀山市歴史博物館
3-15	広報かめやま 11 月上旬号 2 面	昭和 50 年(1975) 11 月 5 日発行	亀山市歴史博物館
3-16	昭和 57 年度全国高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技選手権大会 第 2 位賞状・楯・メダル	昭和 57 年(1982)	三重県立亀山高等学校
コラム モントリオールオリンピック			
3-17	平井一正先生着用ユニホーム	昭和 51 年(1976)	三重県立亀山高等学校
3-18	平井一正先生凱旋(卒業アルバム 1977)	昭和 51 年(1976)	三重県立亀山高等学校
文化部			
演劇部			
3-19	アリババ物語キャスト	昭和 25 年(1950)	谷川家
3-20	アリババ物語上演風景(卒業アルバム 1951)	昭和 25 年(1950)	谷川家
3-21	アルルの女キャスト	昭和 25 年(1950)	谷川家
弁論部			
3-22	三重県高等学校朝日式討論会 優勝楯	昭和時代	三重県立亀山高等学校
3-23	第一回県下高等学校弁論大会 優勝カップ	昭和 35 年(1960)	三重県立亀山高等学校
新聞部			
3-24	学校新聞コンクール 佳作 楯	昭和 31 年(1956) ・ 34 年(1959)	三重県立亀山高等学校
吹奏楽部			
3-25	中部日本吹奏楽コンクール三重県大会 優勝楯	昭和 41 年(1966) ・ 42 年(1967)	三重県立亀山高等学校
3-26	亀山高校新聞 第 76 号 1 面	昭和 43 年(1968) 2 月 10 日発行	三重県立亀山高等学校
3-27	学園祭での演奏	昭和 37 年(1962)	個人
3-28	野球の応援での演奏	昭和 35 年(1960) ~ 37 年(1962)	個人
郷土史クラブ			
3-29	鉄刀(太岡寺古墳群)	古墳時代(5世紀末~7世紀初め)	亀山市歴史博物館
3-30	土師器高坏(太岡寺古墳群 2号墳)	古墳時代(5世紀末~7世紀初め)	亀山市歴史博物館
3-31	太岡寺古墳群発掘調査風景	昭和 39 年(1964)	亀山市(まちなみ文化財G所管)
3-32	木下古墳発掘調査風景	昭和 39 年(1964)	亀山市(まちなみ文化財G所管)
3-33	地方史研究誌 鈴鹿	—	亀山市歴史博物館
図書部			
3-34	読書感想文集 1976	昭和 51 年(1976)	宮崎家
3-35	亀山高校新聞 第 42 号 4 面	昭和 33 年(1958) 2 月 28 日発行	三重県立亀山高等学校
天文部			
3-36	天文サークル・天文部観測記録	昭和 54 年(1979) ~ 57 年(1982)	石垣忠家
3-37	亀山高校新聞 第 75 号 4 面	昭和 42 年(1967) 6 月 26 日発行	三重県立亀山高等学校
4. 亀山高校新聞から見た亀高生			
4-1-1	亀山高校新聞 第 3 号 4 面	昭和 25 年(1950) 2 月 17 日発行	三重県立亀山高等学校
4-1-2	校歌(亀山高校新聞 第 3 号 1 面)	昭和 25 年(1950) 2 月 17 日発行	三重県立亀山高等学校
4-2	亀山高校新聞 第 25 号 2 面	昭和 29 年(1954) 11 月 15 日発行	三重県立亀山高等学校
4-3	亀山高校新聞 第 31 号 1 面	昭和 30 年(1955) 10 月 22 日発行	三重県立亀山高等学校
4-4	亀山高校新聞 第 32 号 4 面	昭和 31 年(1956) 1 月 28 日発行	三重県立亀山高等学校
4-5	亀山高校新聞 第 33 号 2 面	昭和 31 年(1956) 2 月 28 日発行	三重県立亀山高等学校
4-6	亀山高校新聞 第 35 号 2 面	昭和 31 年(1956) 8 月 8 日発行	三重県立亀山高等学校
4-7	亀山高校新聞 第 41 号 1 面	昭和 33 年(1958) 2 月 1 日発行	三重県立亀山高等学校

番号	資料名	時代	所蔵	番号	資料名	時代	所蔵
4-8	亀山高校新聞 第43号3面	昭和33年(1958)5月22日発行	三重県立亀山高等学校	5-30	フォークダンス(卒業アルバム1956)	昭和30年(1955)	亀山市歴史博物館
4-9	亀山高校新聞 第44号1面	昭和33年(1958)8月6日発行	三重県立亀山高等学校	5-31	フォークダンス	昭和35年(1960)	加藤家
4-10	亀山高校新聞 第50号2面	昭和34年(1959)12月24日発行	三重県立亀山高等学校	5-32	全校フォークダンス(卒業アルバム1965)	昭和39年(1964)	天野家
4-11	亀山高校新聞 第52号2面	昭和35年(1960)4月12日発行	三重県立亀山高等学校	(4) 運動会・体育祭・マラソン大会			
4-12	生徒手帳	平成26年(2014)	小林家	5-33	運動会 合同体操(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和4年)	昭和3年(1928)	亀山市歴史博物館
4-13	亀山高校新聞 第60号1面	昭和37年(1962)10月16日発行	三重県立亀山高等学校	5-34	運動会 合同体操(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1934)	昭和8年(1933)	亀山市歴史博物館
4-14	亀山高校新聞 第62号4面	昭和38年(1963)7月6日発行	三重県立亀山高等学校	5-35	長距離競走(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念2600)	昭和14年(1939)	天野家
4-15	亀山高校新聞 第68号4面	昭和40年(1965)7月16日発行	三重県立亀山高等学校	5-36	記録会	昭和時代	亀山市歴史博物館
4-16	亀山高校新聞 第72号4面	昭和41年(1966)6月10日発行	亀山市歴史博物館	5-37	体育祭(卒業アルバム1951)	昭和25年(1950)	谷川家
4-17	亀山高校新聞 第79号2面	昭和44年(1969)1月20日発行	三重県立亀山高等学校	5-38	仮装行列(第13回体育祭)	昭和36年(1961)	加藤家
4-18	亀山高校新聞 第82号1面	昭和44年(1969)12月23日発行	三重県立亀山高等学校	5-39	フォークダンス(卒業アルバム1962)	昭和36年(1961)	加藤家
4-19	亀山高校新聞 第87号2面	昭和46年(1971)8月9日発行	三重県立亀山高等学校	(5) 修学旅行			
4-20	亀山高校新聞 第92号2面	昭和49年(1974)12月25日発行	三重県立亀山高等学校	5-40	関東旅行 明治神宮前集合写真(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和4年)	昭和3年(1928)	亀山市歴史博物館
5. 写真でふりかえる学校生活							
(1) 授業風景							
5-1	国語授業(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1932)	昭和7年(1932)	亀山市歴史博物館	5-41	修学旅行 中禅寺湖畔集合写真(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1932)	昭和6年(1931)	亀山市歴史博物館
5-2	裁縫授業(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1932)	昭和7年(1932)	亀山市歴史博物館	5-42	修学旅行 二重橋前集合写真(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1934)	昭和8年(1933)	亀山市歴史博物館
5-3	家事実習(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1934)	昭和9年(1934)	亀山市歴史博物館	5-43	東京旅行 陸奥艦甲板集合写真	昭和14年(1939)	天野家
5-4	日誌	昭和13年(1938)・14年(1939)	木崎嘉秋家	5-44	屋島談古嶺集合写真(三重県立亀山町立亀山実業学校卒業アルバム2598)	昭和12年(1937)	亀山市歴史博物館
5-5	理科授業(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念2595)	昭和10年(1935)	亀山市歴史博物館	5-45	栗林公園集合写真	昭和12年(1937)	亀山市歴史博物館
5-6	南学校農場(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念1932)	昭和7年(1932)	亀山市歴史博物館	5-46	国会議事堂前集合写真	昭和25年(1950)	谷川家
5-7	南学校農場(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念2595)	昭和10年(1935)	亀山市歴史博物館	5-47	鶴岡八幡宮前集合写真	昭和25年(1950)	谷川家
5-8	華道(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念2595)	昭和10年(1935)	亀山市歴史博物館	5-48	旅館太米館	昭和25年(1950)	谷川家
5-9	華道家元 華可々美 生華菜の巻	明治37年(1904)	木崎嘉秋家	5-49	亀山駅集合(卒業アルバム1955)	昭和29年(1954)	亀山市歴史博物館
5-10	珠算・地理授業	昭和時代	亀山市歴史博物館	5-50	別府観光バス車内(卒業アルバム1956)	昭和30年(1955)	亀山市歴史博物館
5-11	国語授業(卒業アルバム1962)	昭和37年(1962)	加藤家	5-51	あけぼの丸甲板集合写真	昭和35年(1960)	加藤家
5-12	国語授業(卒業アルバム1963)	昭和38年(1963)	個人	5-52	東洋館	昭和35年(1960)	加藤家
5-13	定時制授業風景(卒業アルバム1973)	昭和48年(1973)	三重県立亀山高等学校	コラム 昭和39年東京オリンピック聖火リレー			
5-14	教科書	昭和27年(1952)～30年(1955)発行	西川真智子家	5-53	オリンピック東京大会国内聖火リレー三重県コース実施要綱	昭和39年(1964)	亀山市歴史博物館
(2) 戦中の高女生・実業生							
5-15	詔勅	昭和11年度(1936)	木崎嘉秋家	5-54	第8区間走者集合写真(落針中継地点)	昭和39年(1964)	亀山市歴史博物館
5-16	反省録	昭和11年度(1936)	木崎嘉秋家	5-55	聖火リレー走者胸部マーク	昭和39年(1964)	亀山市歴史博物館
5-17	薙刀練習(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念2599)	昭和14年(1939)	亀山市歴史博物館	5-56	亀山高校新聞 第66号1面	昭和39年(1964)12月24日発行	三重県立亀山高等学校
5-18	勤労奉仕作業(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念2599)	昭和14年(1939)	亀山市歴史博物館				
5-19	慰問品の菊花と短冊(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念2599)	昭和14年(1939)	亀山市歴史博物館				
5-20	校報	昭和13年(1938)～16年(1941)	加藤尚大家				
5-21	サツマイモ収穫作業(亀田町)	昭和時代	亀山市歴史博物館				
5-22	軍事訓練(亀山城南)(三重県立亀山町立亀山実業学校卒業アルバム2598)	昭和時代	亀山市歴史博物館				
5-23	銃剣術	昭和時代	亀山市歴史博物館				
(3) 文化祭・学園祭・音楽会							
5-24	音楽会(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念昭和4年)	昭和3年(1928)	亀山市歴史博物館				
5-25	音楽会(三重県立鈴鹿高等女学校卒業記念2599)	昭和13年(1938)	亀山市歴史博物館				
5-26	亀高式討論会(学園祭)	昭和37年(1962)	伊藤真次家				
5-27	第二校舎内(学園祭)	昭和37年(1962)	伊藤真次家				
5-28	家庭クラブ食堂(卒業アルバム1953)	昭和27年(1952)	亀山市歴史博物館				
5-29	生物クラブ大根展(卒業アルバム1965)	昭和39年(1964)	天野家				

主な参考文献

三重県立亀山高等学校創立六十周年記念事業実行委員会『亀山高等学校六十年史』1982

三重県立亀山高等学校・丘友会『不滅の光 亀山高等学校80年の歩み』

三重大学教育学部同窓会百周年記念事業会『三重大学教育学部創立百年史』1977

学制百年史編集委員会『学制百年史』

(文部科学省 HP https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317552.htm)

昭和48年度全国高等学校総合体育大会三重県実行委員会『報告書』1974

第30回国民体育大会三重県実行委員会『第30回国民体育大会報告書』1976

三重県ウエイトリフティング協会創立35周年記念事業実行委員会・創立35周年記念誌編集委員会

『三重県ウエイトリフティング協会 創立35周年記念誌 心』1991

仲辻真帆「近代日本における団体歌の作曲」『東京藝術大学音楽学部紀要』45、2019

謝辞

本企画展の開催および図録の作成にあたり、下記の機関ならびに多くの皆様からご教示、ご協力を賜りました。
ここに記して改めてお礼申し上げます。 (敬称略・五十音順)

◆機関

三重県立亀山高等学校 亀山市民文化財文化課まちなみ文化財グループ

◆個人

天野孝郎	石垣忠	石河豊	伊藤真次	打田晃	打田正勝	加藤徳成	加藤尚武
加藤尚大	木崎嘉秋	倉田圭子	佐久間一弘	高木隆吉	谷口昭	谷川幸子	檜原蓁
西川真智子	林千代	平井一正	平岡一能	広森繁	松井保利	宮崎哲二	八木淳夫
山田たへ子	山中美奈子	資料ご所蔵の皆さま					

第38回企画展

「亀山高校とその歴史 ～創立100周年を記念して～」

主催 亀山市歴史博物館

協力 三重県立亀山高等学校

助成 財団法人岡田文化財団

発行日 令和4年6月13日

発行 亀山市歴史博物館

〒519-0151

三重県亀山市若山町7番30号

